

令和元年度第4回安来市総合計画・総合戦略推進会議

令和元年 11 月 18 日（月）
午後 1 時 30 分～午後 4 時
安来市役所防災研修棟

次 第

○開会の挨拶

会議成立報告

○議 事

- (1) 第2次安来市総合計画後期基本計画 骨子（案）について
- (2) 第2期安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性（案）について
- (3) 職員ワークショップ及びまちづくりワークショップについて（報告）
- (4) テーマ別意見交換（商業振興、医療、結婚・子育て、その他）

○その他

○閉会の挨拶

第 2 次安来市総合計画 後期基本計画 骨子（案）

1. 安来市の将来像

人が集い 未来を拓く ものづくりと文化のまち

2. 策定の趣旨

- (1) 今後の施策運営の総合的・基本的な指針として、安来市における最上位の行政計画となるもの
- (2) 次の 7 章で構成し、まち・ひと・しごと創生法第 9 条に基づく安来市の総合戦略を含む計画としての位置づけ

| | |
|-------|-------------|
| 第 1 章 | 保健・医療・福祉分野 |
| 第 2 章 | 子育て・教育・文化分野 |
| 第 3 章 | 防災・防犯分野 |
| 第 4 章 | 産業・観光・雇用分野 |
| 第 5 章 | 都市基盤・生活分野 |
| 第 6 章 | 自然・環境保全分野 |
| 第 7 章 | 参画・協働・行財政分野 |

- (3) 安来市の将来像から、今後 6 か年（2020～2025 年度）の目標や施策の基本的方向を示す

3. 進行管理（P D C A）

- (1) 計画（全章）を構成する事業については、客観的な重要業績評価指数（K P I）を設定して、毎年評価を行う
- (2) 総合戦略を構成する具体的な施策については、上記の評価と区別しながらも、一体的に実施する

4. 安来市総合戦略（人口ビジョン）

別 紙

5. 後期基本計画の体系

| 章 | 節 | 取り組みの方向 |
|------------------|-------------------|--|
| 第1章 保健・医療・福祉 | 1. 市民の健康づくりの推進 | 1 健康保持・増進に向けての健康的な生活習慣づくりを支援する 12 病気の有無にかかわらずいきいきと生活できるよう支援する 44 地域ぐるみの健康づくり活動を推進する 70 安心して利用できる医療サービスを提供する |
| | 2. 地域福祉の充実 | 13 利用者の視点に立った福祉サービスを提供する 45 地域福祉活動にかかわる担い手育成とネットワークをつくる |
| | 3. 高齢者福祉の充実 | 2 高齢者の健康寿命の維持・延伸を目指した支援を拡充する 14 高齢者の移手段を支援する 46 高齢者の 生きがいづくり と世代間交流を推進する 71 高齢者が安心して暮らせる環境をつくる |
| | 4. 障がい者福祉の充実 | 15 障がいの有無によらず、幅広い分野で活動できるようにする 72 障がい者が住みたい地域で、安心して生活を営める環境を整える |
| | 5. 社会保障の充実 | 73 各種の社会保障制度を安定して運営する |
| 第2章 子育て・教育・文化 | 1. 結婚・出産・子育て支援の充実 | 47 関係機関、団体が情報共有と連携を図り、子育てを支援する 79 安心して結婚し、産み育てる環境をつくる |
| | 2. 学校教育の充実 | 3 子どもたちが主体的に学べる教育を推進し、学力向上に努める 16 快適な学び環境の充実を図る 36 ふるさと教育を推進する 48 学校、家庭、地域が連携・ 協働 し学びを支える 80 安心して学校生活がおくれる環境を整える 81 豊かな心を育て、心身の健康を大切に教育を推進する |
| | 3. 生涯学習の推進 | 4 生きがいを感じる学習の場を提供する 36 ふるさと教育を推進する（再掲） 49 社会教育により地域人材を育成する |
| | 4. 青少年の健全育成 | 50 犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築く 82 青少年の健全育成を支援する |
| | 5. スポーツ活動の推進 | 5 ライフステージに応じたスポーツ及び運動を推進する 17 安来市のスポーツ文化を支える環境を整備する 37 夢を叶え感動を与える競技スポーツを推進する 64 スポーツ活動による交流・連携を推進する |
| | 6. 文化・芸術活動の推進 | 6 文化・芸術に親しみやすい環境を整備する 38 文化財・伝統文化・伝統芸能の保存・継承活動や活用できる環境を整備する 65 日本遺産「出雲國たたら風土記」を活用した取り組みを推進する |
| | 7. 国際交流の推進 | 7 国際理解を推進し世界に飛躍する人材を育成する 18 多様な文化を尊重し豊かに暮らせる環境をつくる 66 世界の人々が集いあう環境を整える |
| 第3章 防災・防犯 | 1. 消防・防災対策の充実 | 68 連携による防災、救急体制を強化する 83 防災・救急体制を充実させる 84 中山間地域の消防水利の確保を推進する 85 消防団組織の充実を図る 86 消防資機材及び施設を充実する 97 市施設の防災機能を充実させる |
| | 2. 交通安全・防犯の充実 | 51 行政と地域が互いに連動した交通安全対策を推進する 87 交通事故や犯罪のないまちをつくる |
| | 3. 消費者対策の充実 | 88 悪質商法・詐欺被害のない賢い消費生活を送れるよう支援する |

| 章 | 節 | 取り組みの方向 |
|-----------------|-----------------|--|
| 第4章 産業・観光・雇用 | 1. 農林水産業の振興 | 19 生産基盤を強化する 20 健全な森林経営と活力ある林業を確立する 21 森林の持つ公益的機能（水源かん養・地球温暖化防止等）を発揮させる 41 豊かな自然、地域の特性を活かした農林水産業を展開する 52 営農の組織化・農地の利用集積と担い手の育成・確保を推進する 53 地産地消を推進する 54 畜産の生産基盤を強化するとともに、耕畜連携を推進する 89 鳥獣被害対策と耕作放棄地対策を推進する 90 環境にやさしい農林水産業を目指す |
| | 2. 商工業の振興 | 8 雇用の機会を拡大する 9 市内企業の人材確保と人材育成を支援する 42 地域資源を活かした企業支援を行う 55 地域と一体となった商業振興を推進する |
| | 3. 観光の振興 | 22 拠点施設を活かした観光を推進する 23 インバウンド対策を推進する 43 観光資源を発掘・磨き上げる 56 地域と一体となった観光振興を推進する |
| 第5章 都市基盤・生活 | 1. 道路・交通網の充実 | 24 利便性の高い生活基盤（道路網）の整備を進める 74 公共交通の充実を図り、生活の安心を確保する 91 災害に強い交通施設を整備する |
| | 2. 住環境の整備 | 25 バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進する 26 定住希望者へ適切な住環境を提供する 27 快適な住環境をつくる 92 耐震改修、長寿命化計画を進めストック比率を高める 93 安心な住環境をつくる |
| | 3. 公園・緑地の整備 | 28 新たな公園を整備する 94 既存の公園緑地を適切に管理する |
| | 4. 上・下水道の整備 | 29 水質管理を充実・向上させる 95 漏水事故等を減少させる 98 水道事業の効率化など経営を見直す 99 汚水処理施設を普及し、安定稼働と安定経営を行う |
| | 5. 情報化社会の構築 | 30 ICTの利活用による地域情報化を推進する |
| 第6章 自然・環境保全 | 1. 自然環境の保全 | 39 美しい風土を守り伝える 78 水環境保全を推進する |
| | 2. 再生可能エネルギーの利用 | 31 積極的な再生可能エネルギーの利用を推進する 32 省エネ・節電の意識啓発等により自然環境を保全する |
| | 3. 循環型社会の形成 | 57 地域コミュニティと連携したごみ処理を推進する 96 ごみ出しの困難な世帯、不法投棄のないまちをつくる |

| 章 | 節 | 取り組みの方向 |
|------------------|------------------------|---|
| 第7章 参画・協働・行財政 | 1. 参画・協働の推進 | 33 まちづくりの目標や課題を市民と共有する 58 職員の市民活動への参加を推進する 67 地域外の人材が地域づくりの担い手となるよう交流を深める |
| | 2. 地域コミュニティの育成 | 40 交流センターを中心とした特色ある地域づくりを行う 59 若年世代に魅力的な地域活動推進・交流拠点整備・リーダー育成を行う 60 地域の活動主体（自治会、各種団体）間の連携を図る 61 中山間地域の暮らしを支える地域運営の仕組みづくりを支援する |
| | 3. 人権尊重・男女共同参画・平和行政の推進 | 10 企画決定への男女共同参画を促進する 62 国際社会の一員としての自覚と多様性を認めあう社会をつくる 63 男女が互いの個性や能力を認めあう家庭・学校・地域・職場をつくる 75 人権尊重、心身の健康づくり、男女間の暴力のない社会をつくる 76 慣行による性別役割分担を見直し、格差を解消する 77 「非核平和都市宣言」に基づき平和行政を推進する |
| | 4. 行政経営の推進 | 11 市の魅力を広域的にPRする 34 開かれた市政を推進するため、情報収集や情報提供を行う 35 行政サービスを迅速、的確に提供する 69 広域行政を推進する 100 安定的な財政基盤を確立する |

6. 後期基本計画の内容

第1章 保健・医療・福祉分野

第1節 市民の健康づくりの推進

【現状と課題】

- ◆住民主体の24地区健康推進会議と29の組織・関係団体で構成された安来市健康推進会議を中心として、健康増進計画（健康やすぎ21）を推進し、健康寿命の延伸を目指し、健康づくり活動に取り組んでいます。個人で、家庭で、地域でそれぞれが健康づくりを実践しながら、関係機関・団体と協働したさらなる健康づくりの推進と健康づくりのための環境整備が必要です。
- ◆健康増進法に基づく健康診査や健康教室、健康相談をはじめとする保健活動を実施していますが、特定健診やがん検診の受診率は国、県に比べて低い状況にあり、疾病の発症予防と早期発見、悪化予防に向け受診率を向上させる必要があります。死亡原因の第一位であるがんや糖尿病や高血圧をはじめとする生活習慣病の予防のため、乳幼児期からの正しい生活習慣の確立など子どもから高齢者までの生涯を通じた健康づくりの取り組みを一層進める必要があります。
- ◆また、医療においては、市内医療機関の医師の高齢化が進んでおり、無医地区を抱える本市においては、地域格差のない継続して安心して生活できる医療提供体制を構築する必要があります。地域包括ケアシステムの中核となる在宅医療の提供体制の整備と医師及び医療従事者の確保が必要です。
- ◆今後示される島根県保健医療計画（地域医療構想含む）において、地域医療の提供体制と不採算医療と政策医療を担う安来市立病院を含めた医療機関の機能分担及び連携強化が求められています。

【取り組みの方向】

- 1 健康保持・増進に向けての健康的な生活習慣づくりを支援する
- 12 病気の有無にかかわらずいきいきと生活できるよう支援する
- 44 地域ぐるみの健康づくり活動を推進する
- 70 安心して利用できる医療サービスを提供する

【主な事業】

- 「健康やすぎ21」推進事業（生活習慣病予防とがん予防・食育・歯科口腔保健・自死予防など）
- 地域医療提供体制整備事業（安来市立病院「新改革プラン」の進捗管理・評価含む）
- 医師・薬剤師・看護師等確保対策事業

【分野別計画】

- 「健康やすぎ21」（健康増進計画・食育推進計画）
- 特定健診等実施計画
- データヘルス計画
- 安来市新型インフルエンザ等対策行動計画
- 安来市立病院新改革プラン
- 安来市自死対策計画

【安来スタイル】

健康保持・増進に向けての健康的な生活習慣づくりと病気や障がいの有無にかかわらずいきいきと生活できる支援環境を整えるため、安来市健康推進会議・地区健康推進会議を基盤とした行政、地域、関係機関・団体、企業等との強い連携を活かして地域ぐるみの健康づくり活動をさらに充実します。

第2節 地域福祉の充実

【現状と課題】

- ◆急速な少子高齢化、核家族化の進行や過疎化など地域社会が変容する中で、社会の相互扶助機能が低下し、孤立などの問題も起きています。
- ◆このような中、地域での見守り体制を確立するため、行政の全庁的な取り組みと、住民、地域、社会福祉協議会、民生委員・児童委員、サービス提供事業者、ボランティア団体等が「協働」での取り組みを推進することが必要となっています。

【取り組みの方向】

- 13 利用者の視点に立った福祉サービスを提供する
- 45 地域福祉活動にかかわる担い手育成とネットワークをつくる

【主な事業】

- 地域福祉計画推進事業
- 福祉専門学校関連事業、福祉専門学校就学補助事業

【分野別計画】

- 安来市地域福祉計画・地域福祉活動計画（第3期計画）

【安来スタイル】

交流センター単位の地域の結びつきの強さを活かし、地区単位に設置された「住民ワーキング・グループ」に地域住民が地域課題解決に向けて参画する機会を設け、実践的な活動に結びつけていきます。

第3節 高齢者福祉の充実

【現状と課題】

- ◆現在、高齢者の社会活動への支援として、シルバー人材センター支援事業、老人クラブ支援事業、敬老事業、全国健康福祉祭参加事業等を実施しています。今後、さらに高齢化が進むことが見込まれるため、元気で活動出来る高齢者を増やすために、シルバー人材センターのさらなる育成、老人クラブへの加入促進強化運動の展開が必要となってきます。
- ◆また、高齢者の生活支援についても、一人暮らし高齢者の増加が見込まれるため見守りシステムの確立が課題となっています。
- ◆団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据え、生産人口が減少する中、介護保険制度を維持しながら、住み慣れた地域で自立した日常生活の支援が確保される「地域包括ケアシステム」の深化・推進が求められています。

【取り組みの方向】

- 2 高齢者の健康寿命の維持・延伸を目指した支援を拡充する
- 14 高齢者の移動手段を支援する
- 46 高齢者の生きが**いづくり**と世代間交流を推進する
- 71 高齢者が安心して暮らせる環境をつくる

【主な事業】

- 高齢者社会活動支援事業（シルバー人材センター支援事業・老人クラブ連合会支援事業・敬老事業・全国健康福祉祭参加事業）
- 高齢者生活支援事業（緊急通報装置管理事業・外出支援サービス事業）
- 新しい介護予防・日常生活支援総合事業
- 新しい包括的支援事業（在宅医療・介護連携、認知症施策の推進など）

- 健康増進施設・介護予防拠点施設改修事業
- 地域高齢者ふれあい事業交付金交付事業
- 介護保険施設等施設整備事業
- ☆介護人材育成支援・介護人材資質向上促進事業

【分野別計画】

- 安来市高齢者福祉計画・介護保険事業計画

【安来スタイル】

持ち家の比率が高く、三世代同居率が高い、地域の結びつきが比較的強いなどの強みを活かし、暮らし慣れた地域での生活が快適になるよう、地域の自主性が活性化するよう支援します。

第4節 障がい者福祉の充実

【現状と課題】

- ◆高齢化ともあいまった障がい者数の増加及び障がいの重度化・重複化が進んでいます。また、介護者の高齢化も顕著となっており、障がい者本人が地域の中で自立し安心して暮らせる社会づくりが急務となっています。
- ◆地域で暮らす障がい者が、障がい福祉サービス等地域資源を身近なものとして利用するために、基幹相談支援センター、相談支援事業所と連携し相談支援体制の充実、及び各サービス提供事業所相互の連携の強化が求められます。
- ◆また、市内に不足するサービスを補てんするために、近隣市町村の福祉サービスを利用することで、本人に選択の幅が広がるため近隣の事業所との連携を図っていく必要があります。

【取り組みの方向】

- 15 障がいの有無によらず、幅広い分野で活動できるようにする
- 72 障がい者が住みたい地域で、安心して生活を営める環境を整える

【主な事業】

- 各種サービスの提供事業
- 相談・支援事業

【分野別計画】

- 安来市障がい者基本計画
- 安来市障害福祉計画・安来市障害児福祉計画
- 障害者優先調達推進法に伴う調達方針

【安来スタイル】

個別のケースごとに支援会議を実施し、利用者・サービス提供事業所・相談支援事業所による検討により、細やかな障がい者福祉サービスを提供します。

第5節 社会保障の充実

【現状と課題】

- ◆市内の生活保護率は平成24年度をピークに徐々に減少しています。有効求人倍率が好転していることにより就労機会が増えたことが挙げられますが、保護受給者割合では高齢者世帯数が増加しており、高齢化からの傷病、収入減等による保護が増えていくものと予想されます。
- ◆また、生活困窮者自立支援法に基づいた施策の実施のため、早期に生活困窮者を発見し、各種支援を行い、自立促進を図る必要があります。
- ◆国民健康保険制度においては、人口構造の変化に伴い、ますます高齢化が進み後期高齢者医療制度に移行することから加入者数が減少していく一方で、医療費は、高齢化や医療の高度化の影響を受け今後も伸びていく見通しです。継続して安定的な国保運営を行っていくことが課題であり、今後は健康寿命の延伸や医療費適正化に一層注力していくことが求められます。

【取り組みの方向】

73 各種の社会保障制度を安定して運営する

【主な事業】

- 被保護者就労支援事業
- 被保護者等就労準備支援事業
- 生活保護適正化等事業
- 自立相談支援事業
- 住宅確保給付金
- 家計相談支援事業
- 学習支援事業
- 生活支援事業（フードバンク事業、清掃支援、民間賃貸住宅入居債務保証事業等）
- 医療費適正化対策（特定健康診査・特定保健指導、ジェネリック医薬品利用促進）

【分野別計画】

- 特定健康診査等実施計画

【安来スタイル】

医療費適正化対策として、健康やすぎ21・安来市高齢者福祉計画・介護保険事業計画と連動しながら予防に着眼した効果的な特定健康診査・特定保険指導を進めます。

第2章 子育て・教育・文化分野

第1節 結婚・出産・子育て支援の充実

【現状と課題】

- ◆安来市の人口自然増減（出生-死亡）は1980年代まではプラスで推移していましたが、90年以降はマイナスに転じ、徐々にマイナス幅が拡大しています。出生率を高めるため婚姻率を高めることが求められています。
- ◆子ども・子育て支援事業計画に沿って子育て支援施策を推進する必要があり、認定こども園への移行については、前期計画期間に順次移行しました。未移行の施設についても施設整備や職員配置基準が整った施設から順次移行を図ります。
- ◆学校・家庭・地域が連携・協働し、地域住民の豊富な経験、人材等を活用し社会全体で子育てを行う仕組みづくりの構築が課題となっています。また、児童虐待防止、養育支援についても早期支援ができるよう連携体制を強化する必要があります。
- ◆若年妊婦や高齢妊婦が増加傾向にあるため、妊娠期から出産、育児期への継続的な支援が必要であり、早期から基本的な生活習慣づくりと命の大切さ、妊娠・出産等を含めた健康教育、環境づくりが求められています。

【取り組みの方向】

- 47 関係機関、団体が情報共有と連携を図り、子育てを支援する
- 79 安心して結婚し、産み育てる環境をつくる

【主な事業】

- 結婚活動支援事業
- 教育・保育体制の確保
- 時間外保育事業（延長保育）
- 病児・病後児保育事業
- 休日保育事業
- 保育料軽減事業
- 副食費助成事業
- 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター・つどいの広場）
- 子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター）
- みんなで子育て応援事業
- 子育てサイト事業
- 要保護児童対策協議会事業
- 妊婦・乳児一般健康診査事業
- 乳児家庭全戸訪問事業
- 乳幼児健康診査事業
- 各種健康教室事業
- 思春期保健事業
- 不妊治療費助成事業
- 発達相談事業
- 母子保健推進事業
- 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）
- 子ども医療費助成事業

【分野別計画】

- 安来市子ども・子育て支援事業計画

【安来スタイル】

結婚、妊娠、出産、子育てという各段階に応じた切れ目のない支援により、安心して出産して子育てしやすい環境づくりに取り組めます。

第2節 学校教育の充実

【現状と課題】

- ◆子どもを取り巻く現状は、近年大きく変化し、自然体験、社会体験の不足、さらに人間関係の希薄化などがみられます。そうした中、学校教育では、学習意欲、規範意識の低下、思いやりの心の欠如、コミュニケーション力の低下、また、地域社会においては、少子化、家庭、地域の教育力の低下が課題となっております。
- ◆そこで、学力向上の推進や未来をたくましくきり拓く人づくりをするためへの、安心して快適に学習できる教育環境の整備が求められます。さらに、安来を愛し絆を大切に心豊かに生きる人づくりのためへの、心の教育、ふるさと教育及び国際感覚を養う教育の推進が求められています。
- ◆また、学校と地域が連携し、家庭や地域の教育力を学校教育に活用する体制づくり、一貫した教育を推進するための保育所、認定こども園、幼稚園、小中学校の連携体制づくり、個別に特別な支援を要する児童生徒への体制づくりなど、すべての子どもたちの学びを支える体制の充実が必要です。
- ◆今後、安来市総合教育会議の教育方針も踏まえ、様々な課題の解決を図り学校教育を推進していかなければなりません。

【取り組みの方向】

- 3 子どもたちが主体的に学べる教育を推進し、学力向上に努める
- 16 快適な学び環境の充実を図る
- 36 ふるさと教育を推進する
- 48 学校、家庭、地域が連携・協働し学びを支える
- 80 安心して学校生活がおくれる環境を整える
- 81 豊かな心を育て、心身の健康を大切にした教育を推進する

【主な事業】

- 特別支援教育事業
- 給食センター管理事業
- 学校給食配膳施設整備事業
- 小中学校 I C T 環境整備事業
- 学校施設営繕事業
- 教育支援センター（あすなろ）運営事業
- 学校図書館活性化事業
- 国際理解教育推進事業
- ふるさと教育推進事業

【分野別計画】

- 「健康やすぎ21」（健康増進計画・食育推進計画）
- 安来市教育大綱
- 安来市の学校教育
- 安来市子ども子育て支援事業計画

【安来スタイル】

ふるさとに誇りと愛着をもち、国際社会で活躍できる視野と地域課題に対応できるグローバルな人材を育てる環境づくりに取り組みます。

第3節 生涯学習の推進

【現状と課題】

- ◆市民の学習ニーズの把握に努め、各種団体、グループ等との連携を密にしながら、各世代や各分野のニーズに対応した各種講座、教室等の充実・新設等を図り、多様な学習機会の拡充・提供に努める必要があります。
- ◆また、地域の拠点となる交流センターでは、社会教育を通じて地域づくりを担う人材育成を推進していく必要があります。
- ◆さらに、将来を担う子どもたちの「豊かな人間性」を育むため、学校・家庭・地域が連携・協働して様々な学習や体験活動を行う機会を充実していきます。

【取り組みの方向】

- 4 生きがいを感じる学習の場を提供する
- 36 ふるさと教育を推進する（再掲）
- 49 社会教育により地域人材を育成する

【主な事業】

- 共育協働活動推進事業（しまね子育て協同プロジェクト事業）
- 地区交流センター活性化事業

【安来スタイル】

地域づくりの拠点として「交流センター」が設置されており、交流センターを中心に、社会教育による人材育成を進めます。

第4節 青少年の健全育成

【現状と課題】

- ◆地域ぐるみの青少年健全育成活動を推進し、子どもや保護者が安心して暮らせる地域づくりが求められています。
- ◆家庭においては、基本的な生活習慣、社会性の育成などの家庭教育の充実が求められており、学校等における薬物乱用防止に関する指導の充実をはじめ、いじめや不登校の増加などの学校教育問題とあわせて健全な青少年の育成が課題となっています。
- ◆また、インターネットや携帯電話による問題が、ますます多様化しつつあり、かつ低年齢化の傾向にあり、倫理観の育成も必要となっています。

【取り組みの方向】

- 50 犯罪や非行のない安全で安心な地域社会を築く
- 82 青少年の健全育成を支援する

【主な事業】

- 青少年健全育成事業
- “社会を明るくする運動”の推進
- 子どもの学習支援事業
- 青少年専従サポート事業

【安来スタイル】

家庭や地域、学校、関係機関が一体となって青少年の健全育成、非行防止に取り組む青少年育成連絡会議の活動を支援するとともに、「社会を明るくする運動」等を通じて、地域全体で青少年をすこやかに育む意識の啓発などの環境づくりを進めます。

第5節 スポーツ活動の推進

【現状と課題】

- ◆地域の中でライフステージに応じた市民の自主的なスポーツ活動が展開されるためには、公共スポーツ施設や学校体育施設などの効果的・効率的な活用や施設整備が求められています。
- ◆また、2020東京オリンピック・パラリンピックや2巡目の国民スポーツ大会に向けて、地元スポーツの競技力向上を目指していくためには、選手や指導者の育成だけではなく、競技に関わる組織や団体の体制整備や支援を強化していく必要があります。

【取り組みの方向】

- 5 ライフステージに応じたスポーツ及び運動を推進する
- 17 安来市のスポーツ文化を支える環境を整備する
- 37 夢を叶え感動を与える競技スポーツを推進する
- 64 スポーツ活動による交流・連携を推進する

【主な事業】

- スポーツ推進委員育成事業
- スポーツイベント開催事業
- なかうみマラソン全国大会開催事業
- 安来市体育協会補助事業
- 体育施設整備事業

【分野別計画】

- 第2期安来市スポーツ推進計画

【安来スタイル】

「第2期安来市スポーツ推進計画」に基づき「どこでも、だれでも、いつまでもスポーツの『楽しさ』『喜び』を実現できるまち『やすぎ』」の実現のため、スポーツを身近に親しむことができる環境づくりを進めます。

第6節 文化・芸術活動の推進

【現状と課題】

- ◆本市は、中世からおよそ300年に渡り、山陰地方の拠点的作用を果たし、栄えてきておりその面影は、史跡富田城跡に見ることができます。
- ◆また、安来節・どじょうすくい、古事記上巻に記される比婆山、足立美術館等々、神話から美術、神代・古代から近代に至るまで、多種にわたり、全国レベルで語られるべき文化資源を有していますが、いまだ活用されていないものもあり、市民の活力の源として活かされていないのが現状です。
- ◆総合文化ホールは文化芸術に親しむ機会や文化芸術活動を通じたコミュニケーションによって市民一人一人が輝き、多彩な文化芸術活動や人との交流を通じて市民の心豊かな生活を醸成し、次世代を担う子どもたちの育成や地域の文化の土壌を耕すことで、安来市の活性化につながる「まちづくり」「ひとづくり」の拠点施設となることが求められています。

【取り組みの方向】

- 6 文化・芸術に親しみやすい環境を整備する
- 38 文化財・伝統文化・伝統芸能の保存・継承活動や活用できる環境を整備する
- 65 日本遺産「出雲國たたら風土記」を活用した取り組みを推進する

【主な事業】

- 史跡富田城跡調査・整備事業
- 文化財保存活用地域計画策定事業
- 安来市加納美術館改修事業
- 安来市総合文化ホール運営事業

【分野別計画】

- 史跡富田城跡整備基本計画

【安来スタイル】

「演じる」、「観る」、「聴く」、「集う」の3つの基本理念である、「市民の文化・芸術活動の表現の場」、「多様な文化に触れることができる場」、「交流の場」として安来市総合文化ホールを運営します。

第7節 国際交流の推進

【現状と課題】

- ◆ 交通や情報手段の発展に伴い、世界が身近な存在となる中、自らの価値観にとらわれず、広い視野をもち、多様な文化に接し異文化への理解を深めていくことが求められています。
- ◆ 安来市は、平成2年に大韓民国慶尚南道密陽市との間で姉妹都市提携を結び、文化・スポーツ・行政等を通じて相互理解を深め、様々な分野での交流を進めてきました。今後も、密陽市との交流を通じて異文化相互理解を推進していくことが重要です。また、民間団体との連携により交流の機会の拡大を図ることも必要です。
- ◆ 近年、国際交流は、実利の伴う経済交流、観光客の誘致、産業振興等での交流が重視される傾向にあり、今後は経済関係部署との連携により、姉妹都市も含め幅広い国々との交流を視野に戦略的な取り組みを行っていくことが必要となっています。

【取り組みの方向】

- 7 国際理解を推進し世界に飛躍する人材を育成する
- 18 多様な文化を尊重し豊かに暮らせる環境をつくる
- 66 世界の人々が集いあう環境を整える

【主な事業】

- 青少年海外研修事業
- 国際交流事業

【安来スタイル】

姉妹都市交流実績を活かし、さらなる国際化を目指します。

第3章 防災・防犯分野

第1節 消防・防災対策の充実

【現状と課題】

- ◆近年、温暖化の影響により、平成30年7月豪雨のような、想定を超える水害をはじめ、地震、台風などにより毎年自然災害が日本各地で発生しており、本市においても同様な災害に幾度となく見舞われてきました。
- ◆このような大規模災害等に対する初動時の人員不足が課題となっており、安心安全な施策（総合力の向上策）を講じる必要があります。また、中山間地域の消防水利の不足、資機材の老朽化などの問題も解決に向けて取り組む必要があります。
- ◆消防団には「自らの地域は自ら守る」という強い地域保護の意識があり、災害時に適切な活動ができるよう、団員の技術の向上を基本に消防団組織を充実し、消防署と協働による地域住民の安心安全の向上が求められています。

【取り組みの方向】

- 68 連携による防災、救急体制を強化する
- 83 防災・救急体制を充実させる
- 84 中山間地域の消防水利の確保を推進する
- 85 消防団組織の充実を図る
- 86 消防資機材及び施設を充実する
- 97 市施設の防災機能を充実させる

【主な事業】

- 常備（非常備）施設設備整備事業
- 水防事業
- 自主防災組織支援事業
- 消防団体制構築事業

【分野別計画】

- 安来市地域防災計画
- 安来市水防計画

【安来スタイル】

島根原子力発電所から半径30キロ圏内「緊急時防護措置を準備する地域（UPZ）」に属することから原発立地自治体と同様の安全協定の締結を働きかけています。

第2節 交通安全・防犯の充実

【現状と課題】

◆近年は地域でボランティア等による見守り活動が行われており、交通事故発生率、交通死亡事故数が減少傾向にあります。しかし、高齢者の交通安全対策について課題となっています。

◆また、県内の犯罪発生件数は減少しており、治安は改善傾向にありますが、全国的には多種多様な犯罪が発生しております。市民が安心して暮らせるよう犯罪を未然に防ぐ体制の充実が求められています。

【取り組みの方向】

51 行政と地域が互いに連動した交通安全対策を推進する

87 交通事故や犯罪のないまちをつくる

【主な事業】

- 街頭防犯カメラ設置事業
- 防犯灯設置事業補助事業
- 交通安全対策事業
- 交通安全施設整備事業

【分野別計画】

- 安来市交通安全計画

【安来スタイル】

各地区の交通指導員、通学路の安全確保ボランティアなど地域や関係機関と連携して交通事故をなくします。

第3節 消費者対策の充実

【現状と課題】

◆悪質商法による被害に歯止めがかからず、特殊詐欺に関する多くの通報や被害も報告されています。市民が消費者トラブルに遭わず、安心・安全に暮らしていくために、消費者の自立を支援するために行う消費生活に関する教育の推進が必要です。

【取り組みの方向】

88 悪質商法・詐欺被害のない賢い消費生活を送れるよう支援する

【主な事業】

- 消費者行政推進事業

【安来スタイル】

県内初で早期設置した安来市消費者行政審議会主導で消費者教育を推進します。

第4章 産業・観光・雇用分野

第1節 農林水産業の振興

【現状と課題】

- ◆地産地消の取り組みに関心が高く、地元や県内生産物の消費意識が高くなってきています。一方で、農林業の振興について優先度が高い位置付けがあるにもかかわらず、現状には満足されていない状況があります。
- ◆また、主食用米の消費低迷と過剰在庫による米価下落、農業生産コストの高騰、農作物への鳥獣被害の拡大などの課題も残されています。
- ◆今後、遊休農地の増加とその解消が喫緊の課題ですが、農林業の担い手育成・確保対策、生産振興対策が重要であり、特に中山間地域においては農家の高齢化・担い手不足が深刻化しています。
- ◆森林環境譲与税の創設や森林経営管理法に基づく新たな森林管理システムの導入など林業を取り巻く環境が大きく変化する中、これらに対応する諸施策を実行し森林整備、林業振興策の推進が求められています。

【取り組みの方向】

- 19 生産基盤を強化する
- 20 健全な森林経営と活力ある林業を確立する
- 21 森林の持つ公益的機能（水源かん養・地球温暖化防止等）を発揮させる
- 41 豊かな自然、地域の特性を活かした農林水産業を展開する
- 52 営農の組織化・農地の利用集積と担い手の育成・確保を推進する
- 53 地産地消を推進する
- 54 畜産の生産基盤を強化するとともに、耕畜連携を推進する
- 89 鳥獣被害対策と耕作放棄地対策を推進する
- 90 環境にやさしい農林水産業を目指す

【主な事業】

- 新規就農者確保対策事業（農業次世代人材投資事業等）
- ☆就農・定住パッケージ事業
- 担い手育成確保支援事業（安来農林振興協議会・担い手育成総合支援協議会）
- 新農林水産振興がんばる地域応援事業 ※事業名変更の可能性あり
- 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金事業 ※事業名変更の可能性あり
- ☆全共・全ホル出品対策事業
- 畜産振興対策事業
- どじょう振興事業
- 日本型直接支払制度（中山間地域直接支払、多面的機能支払、環境保全型農業直接支払）
- 経営所得安定対策直接支払推進事業
- 農地中間管理事業
- 斐伊川流域荒廃林等再生整備事業、森林整備地域活動支援事業
- 有害鳥獣捕獲対策事業
- 林業振興事業（水源の森づくり）
- 造林事業（市行造林地）
- 林道災害復旧事業、林道維持管理事業
- ふるさとの森再生事業
- 竹林等整備対策事業
- みどりの担い手確保緊急対策事業
- 経営体育成基盤整備事業（大塚地区、安田地区、吉田地区、宇賀荘第三地区、飯梨地区）
- 農地中間管理機構関連農地整備事業
（下山佐地区、上吉田地区、安田中・未明地区、論田地区、久白地区、甘原地区）
- 治山事業
- 農地・農業用施設災害復旧事業
- 農業用施設維持管理事業
- 林道災害復旧事業、林道維持管理事業

- 中山間地域総合整備事業・県営（広瀬・伯太）
- 河川工作物応急対策等整備事業（オヶ崎地区・県営）
- 農村地域防災減災事業（農道整備）
- 農業水路等長寿命化・防災減災事業

【分野別計画】

- 農業の有する多面的機能の発揮に関する計画
- 農用地利用配分計画（農地中間管理機構）
- 安来市農業経営基盤強化促進基本構想
- 安来市農業振興地域整備計画
- 安来市バイオマスタウン構想
- 安来市森林整備計画
- 安来市木材利用基本方針
- 安来市鳥獣被害防止計画
- 農業農村整備事業管理計画

【安来スタイル】

日本有数の大区画ほ場整備により、更なる営農組織化・集積を促進します。

第2節 商工業の振興

【現状と課題】

- ◆中小企業創業者への人材育成や販路拡大、経営基盤強化など、支援の拡充の取り組みによる地域経済活動の活性化と就業の場や機会の充実が求められています。
- ◆また、地域の買い物環境の向上を図り、特色あるイベント等を展開するなど、楽しく魅力ある個店、商店街づくりを進め、商業の活性化による、買い物の便利さ・多様化への対応が求められています。
- ◆また、20代前半の主な転出理由は就職となっており、雇用環境の整備により、就学のために転出した若者が安来市に戻ってくる流れをつくる必要があります。

【取り組みの方向】

- 8 雇用の機会を拡大する
- 9 市内企業の人材確保と人材育成を支援する
- 42 地域資源を活かした企業支援を行う
- 55 地域と一体となった商業振興を推進する

【主な事業】

- ふるさと寄附推進事業
- 産業サポートネットやすぎ事業
- ものづくり企業技術開発等支援事業
- 企業地立地雇用促進事業
- 工業団地整備事業
- 企業見学ツアー事業
- 人材確保育成支援事業
- 創業支援事業
- 中心市街地活性化事業
- 商業再生支援事業
- 商工会議所等補助金事業
- 学習訓練センター事業
- やすぎ刃物まつり事業

【分野別計画】

- 新安来工業団地(仮称)造成事業基本計画
- 安来市創業支援事業計画

【安来スタイル】

安来市・島根県農業協同組合やすぎ地区本部・安来商工会議所・安来市商工会の4団体で組織された産業支援団体「産業サポートネットやすぎ8」により、個人、事業者、団体などの事業を応援しています。また、特殊鋼関連企業の航空機・エネルギー分野への取り組みを支援しています。

第3節 観光の振興

【現状と課題】

- ◆国内外の観光客に対応可能な体験型・滞在型の観光を目指し、本市の海・山・川・等の優れた自然、歴史文化、農業・漁業等の豊かな資源の調査、発掘、既存の観光コンテンツの磨き上げ等を関係者と連携をとりながら実践するとともに、全市的・広域的な新しい観光ルートを設定するなど、観光のまちづくりを推進することが求められています。
- ◆このため、安来市観光協会など観光事業団体の組織力強化が求められている一方、温泉施設や観光施設の老朽化等による整備も課題となっています。
- ◆また、全国的に一部を除いて観光資源の認知度が低いことと、松江・米子に挟まれ通過地点となることが危惧され、市内観光地を周遊する方策及び体制整備と二次交通の対策が課題となっています。

【取り組みの方向】

- 22 拠点施設を活かした観光を推進する
- 23 インバウンド対策を推進する
- 43 観光資源を発掘・磨き上げる
- 56 地域と一体となった観光振興を推進する

【主な事業】

- 観光キャンペーン事業
- 月山富田城誘客推進事業
- 安来市観光協会補助事業
- 安来節振興事業、安来節演芸館（指定管理）
- 広域観光事業
- 市内各観光施設・温泉施設・県立自然公園の管理及び修繕
- インバウンド推進事業
- 月の輪まつり振興会補助事業
- 観光交流プラザ（指定管理）
- 道の駅あらエッサ管理運営事業
- 誘客推進事業

【分野別計画】

- 安来市観光プラン（安来市観光協会策定）

【安来スタイル】

「安来市観光プラン」を基に、認知度が高い観光素材（安来節・どじょうすくい踊り、足立美術館、月山富田跡）や興味度が高い観光素材（足立美術館・いちご・さぎの湯温泉・清水寺・フルーツ狩り他）を活かした観光振興を観光協会、民間事業者と連携して推進します。また、「出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～」の日本遺産登録による、観光振興を推進します。

第5章 都市基盤・生活分野

第1節 道路・交通網の充実

【現状と課題】

- ◆道路整備については、通学路安全強化や橋梁等長寿命化をはじめ現道拡幅などを中心に進めていますが、社会経済状況が変化してきており、少子高齢化、防災対策、新たな広域都市圏の確立など交通行政課題が増してきています。そのため、現状の把握及び新たな基本計画として、主要インフラの早期整備、改良等の促進、河川・港湾・急傾斜崩壊対策、砂防等の災害防除の促進、中海架橋、スマートインターチェンジなどの整備といった交通施策の基礎となる「安来市総合都市交通体系調査」の実施が課題となっています。
- ◆安来木次線切川バイパス並びに都市計画道路飯島線は将来市街地ゾーンを貫き国道9号と接続する交通ネットワークの構築により、地域中心拠点の連携はもとより、産業・物流・観光・交通安全に大きな効果が期待され、早期実現が求められる。
- ◆広域生活バス（イエローバス）は、地域住民の移動の手段として重要な公共交通です。しかし、道路幅員の狭い箇所も存在し、バスの乗り入れが困難な地域の存在があります。住民が安心して住み続けられる公共交通を目指し、バス路線の維持継続や新たな移動手段の運行などが求められています。
- ◆また、近年交通移動手段に関する選択の変化とともに、人口減少等によりバス利用者が減少の傾向にあることから公共交通の利用の促進が課題となっています。

【取り組みの方向】

- 24 利便性の高い生活基盤（道路網）の整備を進める
- 74 公共交通の充実を図り、生活の安心を確保する
- 91 災害に強い交通施設を整備する

【主な事業】

- 道路改良事業（安来港飯島線、山根1号線、黒鳥細井線、中谷1号線、原代宮内線、杉谷線、才下10号線、下ノ原2号線、久之谷線、加茂1号線、細井佐久保線、国服島木線、出来須荒島線、実松2号線、吉佐町内線、菅谷線他）
- 道路維持管理事業
- 災害防除工事事業
- 道路台帳整備事業
- 下水路整備事業
- 道路橋梁長寿命化事業
- 除雪車更新事業・新規購入事業
- 国・県事業の連絡調整及び要望事業
- 主要地方道安来木次線切川バイパス整備、（都市計画道路）飯島線、県道安来インター線整備事業
- バス停整備事業
- バス更新事業
- 生活交通ネットワーク再編事業
- 広域生活バス運行事業

【分野別計画】

- 安来市都市計画マスタープラン
- 安来市地域公共交通連携計画

【安来スタイル】

中海・宍道湖・大山圏域の発展に資する中海架橋の建設や高速道路などの利便性向上（パーキングエリア・スマートインターチェンジ、高速バスストップ、伯備新幹線、山陰新幹線、安来道路を含む山陰道の4車線化）を関係機関に働きかけ早期実現を目指します。

市内交通については、市民ニーズや地域の実情により見直しを行い、利便性の向上と交通空白地域の解消を図ります。

第2節 住環境の整備

【現状と課題】

- ◆耐震診断及び耐震改修に要する費用が住民負担となっていることから木造住宅の耐震化率が低く、また、耐震診断及び耐震改修助成制度の利用者が少ない状況にあります。
- ◆既存の公営住宅等においては、高齢者や障がい者等入居者の多様なニーズに対応できていない施設があり、施設の利用目的に対応した整備計画を整理し、計画的に整備を進めていく必要性があります。また、既存の老朽化（耐用年数を経過した住居）した公営住宅等の今後のあり方については、長寿命化計画の中で検討を進める必要があります。
- ◆人口減少に伴い空き家が増加しています。空き家等対策の推進に関する特別措置法の施行に伴い、空き家等の実態把握、空き家相談などへの対応が求められています。
- ◆空き家等を活用しながら、移住・定住希望者の住まいを確保するとともに、住宅の各種支援制度により市民の定住意識を高める必要があります。
- ◆また、空き家等が適切に管理されなくなることで、火災の危険性や倒壊のおそれなどの安全性の低下、公衆衛生の悪化、景観の阻害など多岐にわたる問題を生じさせ、地域住民の生活環境に深刻な影響も及ぼしています。
- ◆地震による被害が起きた場合に建築物の倒壊などにより緊急物資の運搬や地域住民の避難路となる道路を閉鎖することを未然に防止するために、緊急輸送道路沿いの建築物について耐震化を図る必要があります。

【取り組みの方向】

- 25 バリアフリー化、ユニバーサルデザイン化を推進する
- 26 定住希望者へ適切な住環境を提供する
- 27 快適な住環境をつくる
- 92 耐震改修、長寿命化計画を進めストック比率を高める
- 93 安心な住環境をつくる

【主な事業】

- 木造住宅耐震化等促進事業（耐震診断・耐震改修）
- 公営住宅整備事業
- 公営住宅等ストック総合改善事業
- ☆老朽危険建築物等除却助成事業
- ☆要安全確認計画記載建築物耐震化促進事業
- 民間賃貸住宅家賃助成事業
- 地籍調査事業
- 都市計画事業
- 和田南土地区画整理事業補助事業
- ハーモニータウン汐彩販売促進事業

【分野別計画】

- 安来市建築物耐震改修促進計画
- 安来市公営住宅等長寿命化計画
- 安来市空き家等対策計画
- 安来市都市計画マスタープラン

【安来スタイル】

充実した住宅の各種支援制度により、市民の定住意識を高めるとともに移住・定住の促進をします。

第3節 公園・緑地の整備

【現状と課題】

- ◆公園や水辺などの保全と整備に努め、環境学習の場としても活用するなど、多くの市民が安全で快適に利用できるよう、美化・保全や施設の整備を図り、水とみどり豊かな、花に包まれた都市空間づくりが必要です。
- ◆市内の公園や緑地は、子どもの遊び場やスポーツ・レクリエーションなどの住民交流の場として広く利用されており、災害や緊急時の避難や拠点施設としての役割を担っています。しかし、遊具等の老朽化から現存する施設の修繕、改修が必要となっています。

【取り組みの方向】

- 28 新たな公園を整備する
- 94 既存の公園緑地を適切に管理する

【主な事業】

- 中海ふれあい公園整備事業
- 公園管理事業

【分野別計画】

- 安来市緑の基本計画（安来市緑のマスタープラン）
- 安来市都市計画マスタープラン

【安来スタイル】

市内には山地や海岸等の自然環境や史跡などを活かした多種多様な公園が所在します。中海に面した本市の玄関口に大規模公園を整備します。

第4節 上・下水道の整備

【現状と課題】

- ◆上水道では、水道普及地域内における飲料水への安心感、信頼感は大きいものがあります。事業の安定経営に努めながら、施設・基幹管路等の耐震化率の改善をはじめ、老朽化による更新時期を迎える浄・配水施設の耐震化を含めた施設機能の強化を計画的に取り組みます。
- ◆下水道では、下水道料金・負担金の滞納問題や、汚水施設の老朽化や更新時期の集中による負担増、維持管理費の増加、下水道未接続世帯の早期解消、個別処理地域での浄化槽の普及促進が課題となっています。

【取り組みの方向】

- 29 水質管理を充実・向上させる
- 95 漏水事故等を減少させる
- 98 水道事業の効率化など経営を見直す
- 99 汚水処理施設を普及し、安定稼働と安定経営を行う

【主な事業】

- 水道施設整備・水道運営事業
- 水道事業運営基盤強化推進事業（水道事業の広域化）
- 公共下水道整備事業
- 農業集落排水施設機能強化事業
- 浄化槽市町村整備推進事業
- 浄化槽設置整備事業

【分野別計画】

- 安来市水道事業ビジョン（経営戦略）
- 安来市生活排水処理施設整備基本計画

【安来スタイル】

本市が誇る豊かな水資源を引き続き生活の基盤として、安全・安心でおいしい水を供給する。

第5節 情報化社会の構築

【現状と課題】

- ◆情報通信技術（ICT）の急速な進展や、インターネットに加え携帯電話網等によるモバイルICT利用の増加などによって、情報通信基盤は、経済活動や市民生活に欠かせないものとなっています。
- ◆ICT及び、市内全域に整備した光ファイバによる高速情報通信網の利活用を各分野に広げて、情報化のさらなる展開を図ることで、地域課題への対応や住民サービスの向上、地域の活性化を進めることが必要です。
- ◆Society 5.0 と呼ばれる次の時代に向けた社会情勢や技術動向を踏まえて、新しい技術を活用した効率的な生産や利便性の高い生活の実現を図る必要があります。
- ◆また、携帯電話不感地域の存在や、情報機器の取り扱いができない高齢者、障がい者等の情報弱者への対策が課題となります。

【取り組みの方向】

30 ICTの利活用による地域情報化を推進する

【主な事業】

- 地域情報化推進事業
- 携帯電話不感地域対策事業
- 証明書コンビニ交付事業
- 地域イントラネット運用事業
- イントラネットサーバ更新事業
- OA用パソコン購入事業
- 総合行政システムクラウド化検討事業
- ☆オープンデータ推進事業

【分野別計画】

- 安来市情報化計画

【安来スタイル】

市内全域に整備した光ファイバによる高速情報通信網の利活用を各分野に広げて、地域課題への対応や住民サービスの向上、地域の活性化を進めます。

第6章 自然・環境保全分野

第1節 自然環境の保全

【現状と課題】

- ◆市の約64%を占める山林、伯太川・飯梨川などの河川、近隣3市に及ぶ中海など、安来市は多くの自然に囲まれています。
- ◆豊かな山林により育まれた水は、河川を潤し、水資源として利活用され、河川が注ぎ込む中海は、美しい景観を作り出すとともに、レクリエーション等の憩いの場や魚介類の生息、渡り鳥の飛来場所として市民に様々な恩恵をもたらしています。しかしながら、生活様式や生活環境の変化に伴い、水質の低下が懸念されています。
- ◆市民・事業者・行政の努力や協働により、河川の水質は一定の水準を維持してはいますが、中海の水質については、改善の傾向が見られるものの横ばいの状況となっています。
- ◆安来市の美しい景観を作り出す山林・河川・湖沼といった自然環境を守り・残していくために、さらなる啓発や協働が求められています。

【取り組みの方向】

- 39 美しい風土を守り伝える
- 78 水環境保全を推進する

【主な事業】

- 水環境保全事業

【分野別計画】

- 安来市生活排水処理基本計画

【安来スタイル】

市民満足度・重要度がともに高い豊かな自然環境を活かして、平成の名水百選選定の鷹入の滝やラムサール条約登録湿地の中海をはじめ河川や湖沼を利用した環境啓発機会の提供や環境教育を展開します。

第2節 再生可能エネルギーの利用

【現状と課題】

- ◆地球温暖化を起因とする極端な気象現象、農作物や生態系への影響などの諸問題は年々深刻となっています。
- ◆2015年には世界全体における地球温暖化対策の新たな枠組みとして「パリ協定」が合意され、すべての国々が長期的な温室効果ガス削減に取り組むことになり、日本は国内での温室効果ガス排出量を2030年度に2013年度比「△26%」の水準を目指すことになりました。
- ◆安来市はこれまでも市民・事業者・行政が協力し、省エネルギーなど温暖化の抑制に取り組んできましたが、地球環境に与える影響を軽減するため、再生可能エネルギーの活用を進めて行く必要があります。

【取り組みの方向】

- 31 積極的な再生可能エネルギーの利用を推進する
- 32 省エネ・節電の意識啓発等により自然環境を保全する

【主な事業】

- 資源循環型社会の構築による地球温暖化対策事業
- 公共施設再生可能エネルギー導入検討事業
- 地球温暖化対策事業
- 小水力発電所事業
- 再生可能エネルギー普及事業（太陽光発電等設備・太陽熱利用設備）

【分野別計画】

- 安来市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）
- 安来市バイオマスタウン構想（再掲）

【安来スタイル】

安来市地球温暖化対策地域協議会を中心に、市民・事業者・行政の各主体が、それぞれの役割に応じた温暖化対策を総合的かつ計画的に推進します。

第3節 循環型社会の形成

【現状と課題】

- ◆ごみのリサイクルについて、市民の協力で分別された廃棄物を順調に推進しています。
- ◆また、不法投棄対策については、警察と連携するとともに道路管理局と連携した対応を行います。
- ◆一方で、高齢化社会を背景としたごみ出し困難世帯の増加など社会的な要因による課題が増加しており、福祉関連部局と連携が急務となっています。

【取り組みの方向】

- 57 地域コミュニティと連携したごみ処理を推進する
- 96 ごみ出しの困難な世帯、不法投棄のないまちをつくる

【主な事業】

- 一般廃棄物処理事業
- 廃棄物処理施設整備事業
- 廃棄物集積場設置整備費補助事業
- 不法投棄パトロール事業

【分野別計画】

- 安来市一般廃棄物処理基本計画
- 安来市一般廃棄物処理実施計画
- 安来市分別収集計画

【安来スタイル】

市民の協力により受け継がれてきた16種分別の実施により、ごみを資源としてリサイクルを推進していきます。

第7章 参画・協働・行財政分野

第1節 参画・協働の推進

【現状と課題】

- ◆市民協働に対する認識の共有化や市民がまちづくりに参画する機会が十分ではなく、まちづくりの目標や課題解決に向けた取り組みを推進するため、職員が市民活動に関わる機会や市民がまちづくりに関わる機会の充実が必要です。
- ◆さらに、都市部にいながらも、何らかの形で安来市と関わりたいと希望する人々（関係人口）を掘り起こし、市内での活動の場を提供など、地域活性化への貢献できる取組が必要です。

【取り組みの方向】

- 33 まちづくりの目標や課題を市民と共有する
- 58 職員の市民活動への参加を推進する
- 67 地域外の人材が地域づくりの担い手となるよう交流を深める

【主な事業】

- 出前講座事業
- ボランティア活動支援事業
- 地域元気いきいき補助事業
- 地域トライアングル事業補助金

【安来スタイル】

市民と行政が一緒になって課題解決に取り組み、協働のまちづくりを推進します。

第2節 地域コミュニティの育成

【現状と課題】

- ◆人口減少や高齢化が進み、自治会活動や交流センター単位での地域活動など、地域コミュニティの維持は徐々に困難な状況となっています。それに伴い、伝統文化の継承、農地や里山の維持等にも支障を来すとともに、地域に商店がなくなるなど、日常生活に必要なサービスの低下も懸念されており、地域住民を主体とした地域運営が求められています。
- ◆そうした課題に関しても、自治会や交流センター単位での取り組みにより解決を目指すような動きを活性化させるとともに、地域のキーマンであるリーダー育成を行う必要があります。

【取り組みの方向】

- 40 交流センターを中心とした特色ある地域づくりを行う
- 59 若年世代に魅力的な地域活動推進・交流拠点整備・リーダー育成を行う
- 60 地域の活動主体（自治会、各種団体）間の連携を図る
- 61 中山間地域の暮らしを支える地域運営の仕組みづくりを支援する

【主な事業】

- ☆つなぐ！ひろがる！地域づくり支援事業
- ☆小さな拠点づくり事業
- 地域おこし協力隊事業
- 地区公民館活性化事業
- 自治会代表者協議会事業
- コミュニティ施設整備支援事業

【安来スタイル】

各地区に設置されている交流センターを核として、自治会との連携により地域コミュニティの活性化を推進します。

第3節 人権尊重・男女共同参画・平和行政の推進

【現状と課題】

- ◆人権課題の多様化による課題の解決のためには、市民一人一人が日常生活の中で、人権に関する課題に気づき、自らの課題として解決に向け主体的に取り組んでいけるよう、一層の教育、啓発の推進が必要です。この状況を踏まえ、安来市人権・同和教育推進協議会を核として、積極的に啓発活動に努めていきます。
- ◆本市でも、外国人の住民の増加・多国籍化の流れがあり、これに伴い多文化が共生する地域社会が身近なものとなってきています。今後は、外国人住民も地域社会の重要な一員として、安心して生活できる環境を整えていくことが求められています。
- ◆平和行政については、戦争体験者が少なくなる中、国際社会において政治的緊張も高まっており、様々な平和活動を通じて、市民の平和意識の向上を図り、先人の平和への想いを次世代につなげていかなければなりません。

【取り組みの方向】

- 10 企画決定への男女共同参画を促進する
- 62 国際社会の一員としての自覚と多様性を認めあう社会をつくる
- 63 男女が互いの個性や能力を認めあう家庭・学校・地域・職場をつくる
- 75 人権尊重、心身の健康づくり、男女間の暴力のない社会をつくる
- 76 慣行による性別役割分担を見直し、格差を解消する
- 77 「非核平和都市宣言」に基づき平和行政を推進する

【主な事業】

- 人権施策推進事業
- 多文化共生事業

【分野別計画】

- 人権施策推進基本方針
- 第4次安来市男女共同参画計画

【安来スタイル】

安来市人権・同和教育推進協議会を核に、地域、企業、団体等へ様々な人権課題についての啓発活動を推進していきます。また、平成26年に制定した「非核平和都市宣言」に基づき、平和行政を推進します。

第4節 行政経営の推進

【現状と課題】

- ◆時代の潮流を捉え、市民ニーズに的確に応えた行政サービスを継続的に提供するため、地域の実情やニーズを丁寧に汲み上げて施策を企画立案・実行し、重点的に取り組む分野については、各部門を横断した体制を基本に戦略的に進め、より効率的、効果的な施策展開が求められます。
- ◆今後の労働力人口の減少や介護需要の増大、公共施設、道路橋りょう等インフラの老朽化などさまざまな行政課題に対応するための財源を確保しながら、必要な行政サービスを提供していくために、健全な財政運営が求められます。
- ◆また、中海・宍道湖・大山圏域の一員として、境港へのクルーズ船寄港増加、松江尾道線の開通、松江城の国宝化など好機を活かして、産業・観光・環境など様々な分野において広域連携が求められています。

【取り組みの方向】

- 11 市の魅力を広域的にPRする
- 34 開かれた市政を推進するため、情報収集や情報提供を行う
- 35 行政サービスを迅速、的確に提供する
- 69 広域行政を推進する
- 100 安定的な財政基盤を確立する

【主な事業】

- 広報・広聴・シティープロモーション事業
(広報紙、メールマガジン、市政見学会、市政提案箱、ケーブルテレビ、ホームページ、SNS)
- 中海・宍道湖・大山圏域市長会事業
- 行財政改革・公共施設マネジメント事業
- 市税賦課徴収事業
- 財産・契約管理事業
- 定住サポートセンター事業
- 情報発信・定住総合PR事業

【分野別計画】

- 安来市行政改革大綱
- 安来市中期財政計画
- 人材育成基本方針
- 過疎地域自立促進計画
- 公共施設等総合管理計画・個別施設計画

【安来スタイル】

日本海側有数の人口、経済、観光資源の集積する都市圏という立地を活かし、県境を越えた広域連携による振興を推進します。

後期基本計画における取り組みの方向（新旧対照表） ※変更箇所のみ抜粋※

■第1章 保健・医療・福祉

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|-------------|---|--|-------------------------------|
| 3. 高齢者福祉の充実 | 2 高齢者の健康寿命の維持・延伸を目指した支援を拡充する 1 4 高齢者の移動手段を支援する 4 6 高齢者の出番をつくる世代間交流を推進する 6 9 高齢者が安心して暮らせる環境をつくる | 2 高齢者の健康寿命の維持・延伸を目指した支援を拡充する 1 4 高齢者の移動手段を支援する 4 6 高齢者の <u>生きがいきくり</u> と世代間交流を推進する 7 1 高齢者が安心して暮らせる環境をつくる | ・「出番をつくる世代間交流」の意味が曖昧なため、文言を修正 |

■第2章 子育て・教育・文化

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|---------------|--|--|--|
| 2. 学校教育の充実 | 3 子どもたちが主体的に学べる教育を推進し、学力向上に努める 1 6 快適な学び環境の充実を図る 3 6 ふるさと教育を推進する 4 8 学校、家庭、地域が連携し学びを支える 7 8 安心して学校生活がおくれる環境を整える 7 9 豊かな心を育て、心身の健康を大切にされた教育を推進する | 3 子どもたちが主体的に学べる教育を推進し、学力向上に努める 1 6 快適な学び環境の充実を図る 3 6 ふるさと教育を推進する 4 8 学校、家庭、地域が連携・ <u>協働</u> し学びを支える 8 0 安心して学校生活がおくれる環境を整える 8 1 豊かな心を育て、心身の健康を大切にされた教育を推進する | ・地域と学校、保護者が育てたい子ども像などの目標の実現に向けて、互いにパートナーとして連携・協働することが重要となっているため、「協働」の文言を追加 |
| 6. 文化・芸術活動の推進 | 6 文化・芸術に親しみやすい環境を整備する 3 8 文化財・伝統文化・伝統芸能の保存・継承活動や活用できる環境を整備する 6 4 たたら製鉄文化を活かした交流を拡大する | 6 文化・芸術に親しみやすい環境を整備する 3 8 文化財・伝統文化・伝統芸能の保存・継承活動や活用できる環境を整備する 6 5 <u>日本遺産「出雲國たたら風土記」を活用した取り組みを推進する</u> | ・日本遺産登録を活かした文化活動の取り組み推進のため、文言を修正 |

■第3章 防災・防犯

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|---------------|---|--|-----------------------------|
| 1. 消防・防災対策の充実 | 6 6 連携による防災、救急体制を強化する 8 1 防災・救急体制を充実させる 8 2 中山間地域の消防水利の確保を推進する 8 3 消防団組織の充実を図る 8 4 消防資機材及び施設を充実する | 6 8 連携による防災、救急体制を強化する 8 3 防災・救急体制を充実させる 8 4 中山間地域の消防水利の確保を推進する 8 5 消防団組織の充実を図る 8 6 消防資機材及び施設を充実する 9 7 <u>市施設の防災機能を充実させる</u> | ・災害に備え、施設、設備、備蓄品等の充実を図るため追加 |

※裏面あり

■第4章 産業・観光・雇用

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|-------------|--|--|---|
| 1. 農林水産業の振興 | <u>8 主食用米の消費を拡大する</u> 1 9 生産基盤を強化する 2 0 健全な森林経営と活力ある林業を確立する 2 1 森林の持つ公益的機能（水源かん養・地球温暖化防止等）を発揮させる 4 1 豊かな自然、地域の特性を活かした農林水産業を展開する 5 2 営農の組織化・農地の利用集積と担い手の育成・確保を推進する 5 3 地産地消を推進する 5 4 畜産の生産基盤を強化するとともに、耕畜連携を推進する 8 7 鳥獣被害対策と耕作放棄地対策を推進する 8 8 環境にやさしい <u>農業</u> を目指す | 1 9 生産基盤を強化する 2 0 健全な森林経営と活力ある林業を確立する 2 1 森林の持つ公益的機能（水源かん養・地球温暖化防止等）を発揮させる 4 1 豊かな自然、地域の特性を活かした農林水産業を展開する 5 2 営農の組織化・農地の利用集積と担い手の育成・確保を推進する 5 3 地産地消を推進する 5 4 畜産の生産基盤を強化するとともに、耕畜連携を推進する 8 9 鳥獣被害対策と耕作放棄地対策を推進する 9 0 環境にやさしい <u>農林水産業</u> を目指す | ・市の計画として適切ではないため、削除（国が示す作付け目安が大きく関連する） ・農林水産業すべての施策にするため、文言を修正 |
| 2. 商工業の振興 | 9 雇用の機会を拡大する 4 2 地域資源を活かした企業支援を行う 5 5 地域と一体となった商業振興を推進する | 8 雇用の機会を拡大する <u>9 市内企業の人材確保と人材育成を支援する</u> 4 2 地域資源を活かした企業支援を行う 5 5 地域と一体となった商業振興を推進する | ・人材不足や熟練人材の退職等、市内企業の支援を推進するため追加 |

■第5章 都市基盤・生活

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|-------------|--|---|------------------|
| 3. 公園・緑地の整備 | 2 8 新たな公園を整備する 9 2 公園緑地の防災機能を充実させる 9 3 既存の公園緑地を適切に管理する | 2 8 新たな公園を整備する 9 4 既存の公園緑地を適切に管理する | ・「防災公園事業」終了により削除 |

■第7章 参画・協働・行財政

| 節 | 前期基本計画 | 後期基本計画 | 変更理由 |
|----------------|---|--|----------------------|
| 1. 参画・協働の推進 | 3 3 まちづくりの目標や課題を市民と共有する 5 8 職員の市民活動への参加を推進する _____ | 3 3 まちづくりの目標や課題を市民と共有する 5 8 職員の市民活動への参加を推進する <u>6 7 地域外の人材が地域づくりの担い手となるよう交流を深める</u> | ・「関係人口創出関連事業」推進のため追加 |
| 2. 地域コミュニティの育成 | 4 0 交流センターを中心とした特色ある地域づくりを行う 5 9 若年世代に魅力的な地域活動推進・交流拠点整備・リーダー育成を行う 6 0 地域の活動主体（自治会、各種団体）間の連携を図る _____ | 4 0 交流センターを中心とした特色ある地域づくりを行う 5 9 若年世代に魅力的な地域活動推進・交流拠点整備・リーダー育成を行う 6 0 地域の活動主体（自治会、各種団体）間の連携を図る <u>6 1 中山間地域の暮らしを支える地域運営の仕組みづくりを支援する</u> | ・「小さな拠点づくり事業」推進のため追加 |

第2期安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性（案）

第1期（2015年度～2019年度） 総合戦略の枠組み

◆人口ビジョン

将来人口目標

- ・2060年に総人口約3万人を維持
- ・人口構造のバランスの安定（高齢化抑制）

将来人口目標実現のための目標

- ・2020年以降転入超過を実現
- ・2040年までに合計特殊出生率2.07を達成

目指すべき方向性

- ・自然減の抑制（出生率UP）
- ・社会減の抑制（「10代後半～30代」の人口流出の抑制）

◆総合戦略

基本目標1. 若い世代の結婚・出産・子育てを“支援（てご）”する

- (1) 結婚しやすい環境づくり
- (2) 出産・子育て環境の充実
- (3) 学校教育の充実・グローバル人材の育成

基本目標2. 産業振興により、若者に魅力ある雇用の場を創出する

- (1) 雇用の場の確保・創出
- (2) 地域資源を活かした観光振興
- (3) 若者・女性等の就職支援の充実

基本目標3. 住環境を向上し、市民の定住意識を高める

- (1) 住宅の確保
- (2) 移住者受け入れ体制の充実
- (3) まちなか等の利便性の向上
- (4) 安心・安全な地域づくり

基本目標4. 多種多様で魅力的な“地域（じげ）”を形成する

- (1) 地域の担い手の確保・育成
- (2) 地域の拠点づくり
- (3) 交通ネットワークの整備

安来市の人口に関する課題等

現状

- ・総人口は長期間減少傾向で推移
- ・65歳以上の高齢者の割合が増加、64歳以下の割合が減少
- ・合計特殊出生率は全国の水準より高く増加傾向である一方、出生数は減少傾向
- ・転出超過傾向（男性よりも女性の転出超過数が多い傾向）

将来人口の見通し

- ・今後も人口減少、少子化・高齢化が進展する見込み
- ・社人研推計の純移動率による2025年の生涯定住率は男性と比べ女性が低い傾向がある。

国の基本方針等

4つの基本目標

従来の枠組を維持しつつ、必要な強化を行う

1. 地方にしごとをつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる ※取組強化
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる ※取組強化
4. 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

↑ ↑ ↑
地方創生版・三本の矢
情報支援、人材支援、財政支援

第2期総合戦略の方向性

第2期（2020年度～2025年度） 総合戦略の枠組み

新たな視点

第2期総合戦略においては、基本方針の実現に向けた取組を実施するにあたり、第1期の取組に加え、次の視点に立った施策の推進を検討する

1. 人口減少への適応

- ・人口減少を前提に、そうした状況でも活気があり、安心して豊かな暮らしが営めるまちづくりに向けた取組の検討 など

2. 女性が活躍できる地域社会の構築

- ・女性のUIターン促進と転出抑制、女性を意識（ターゲットに）した事業展開、女性の視点や意見の反映 など

3. 新しい時代に向けた取組へチャレンジ

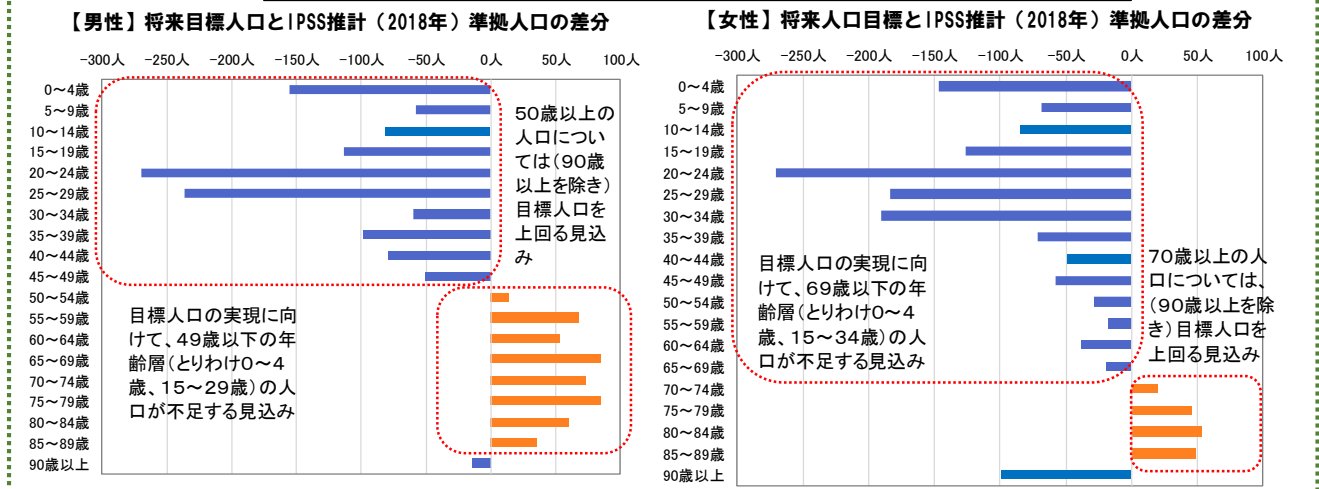
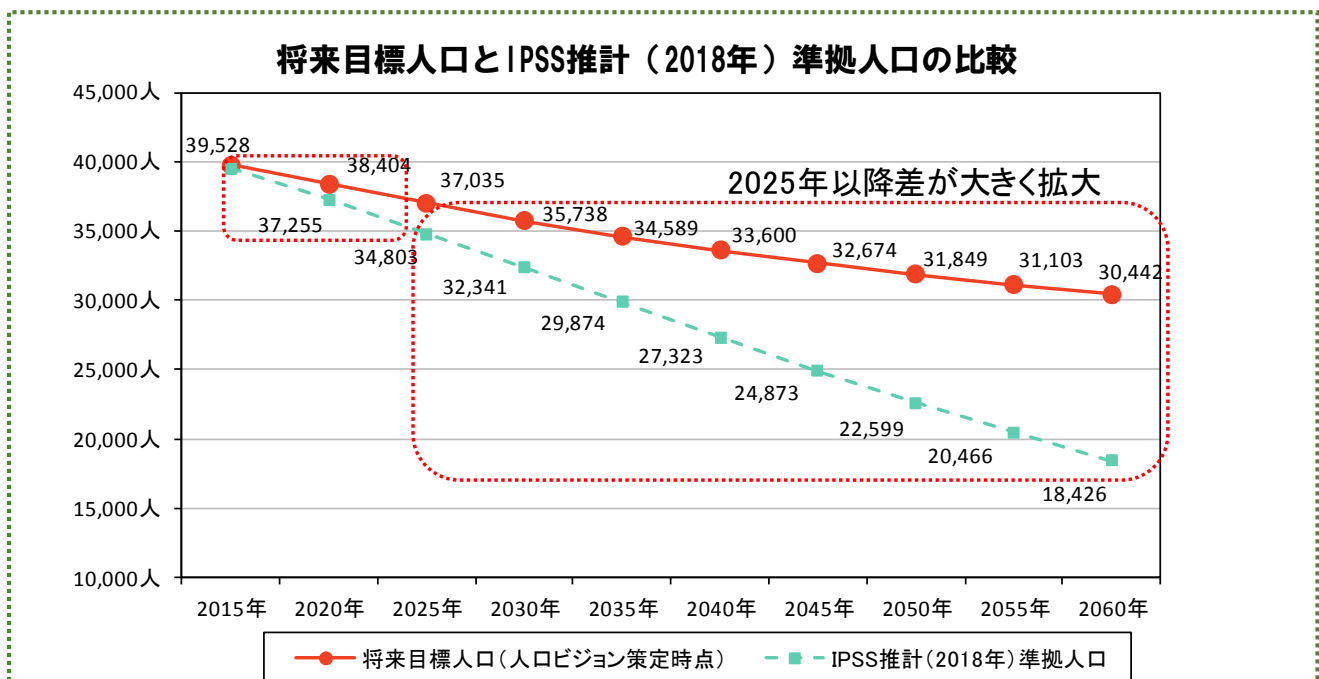
- ・新たな概念であるSociety5.0に関連した考え方などを踏まえた取組の検討 など

第1期総合戦略に根付いた地方創生の意識や枠組み・取組を継続しつつ、第1期の取組・検証結果や市が抱える人口の課題、国の方針も勘案した新たな視点等を踏まえ、地方創生のより一層の充実・強化に取り組む

<基本目標>

1. 若い世代の結婚・出産・子育てを“支援（てご）”する
2. 産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する ～女性のUIターン促進等の視点追加～
3. 住環境を向上し、移住・定住を促進する ～人口が減少してもにぎわいを維持する視点追加～
4. 多種多様で魅力的な“地域（じげ）”を形成する ～人口減少適応の視点（Society5.0など）を追加～

■将来人口目標と国立社会保障・人口問題研究所（IPSS）推計準拠人口の比較



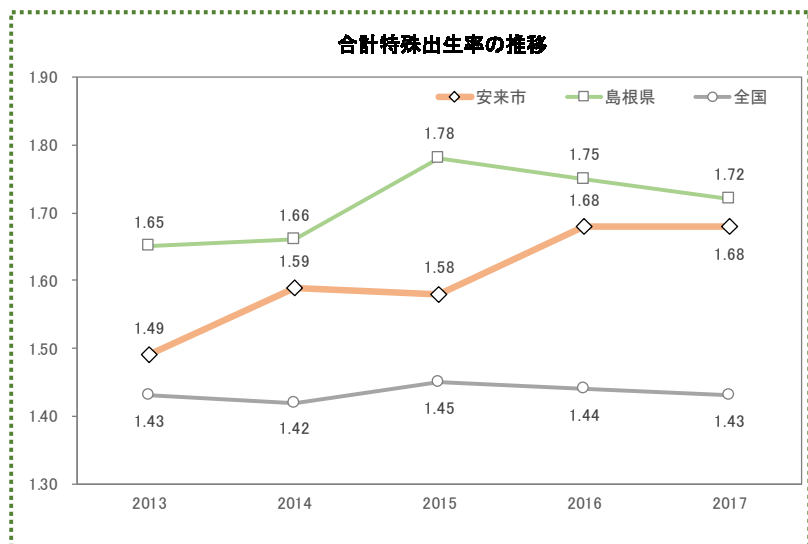
2025年の将来人口目標とIPSSの推計準拠人口とを比較すると、目標人口に対して男性750人程度マイナス、女性1,280人程度マイナス
 → 特に、出生が期待される女性の15～34歳の人口が不足する見込み

| | 2015年 | 2020年 | 2025年 | 2030年 | 2035年 | 2040年 | 2045年 | 2050年 | 2055年 | 2060年 |
|-----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総人口 | 39,528 | 37,255 | 34,803 | 32,341 | 29,874 | 27,323 | 24,873 | 22,599 | 20,466 | 18,426 |
| 年少人口 (0～14歳) | 4,828 | 4,222 | 3,684 | 3,272 | 2,876 | 2,571 | 2,295 | 2,038 | 1,796 | 1,581 |
| 生産年齢人口 (15～64歳) | 20,767 | 18,689 | 17,070 | 15,590 | 14,249 | 12,320 | 10,769 | 9,544 | 8,575 | 7,710 |
| 老年人口 (65歳以上) | 13,933 | 14,344 | 14,049 | 13,479 | 12,749 | 12,432 | 11,809 | 11,017 | 10,095 | 9,135 |
| 人口変化率 (5年間) | - | 94.2% | 93.4% | 92.9% | 92.4% | 91.5% | 91.0% | 90.9% | 90.6% | 90.0% |

人口減少の速度が加速、少子化・高齢化がさらに進行

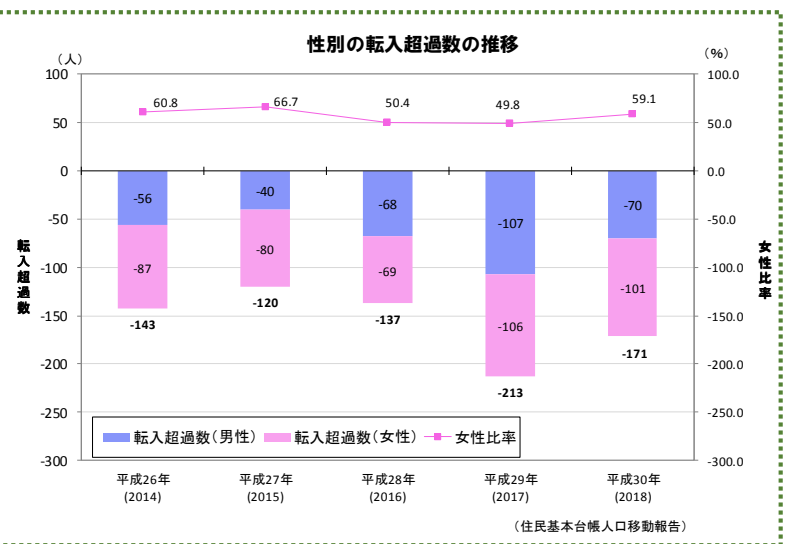
◆将来目標人口は安来市人口ビジョン（H27策定）における目標人口
 ◆IPSS推計（2018年）準拠人口は、国立社会保障・人口問題研究所が2018年に公表した将来人口推計の設定（純移動率等）に準拠した推計結果（整数化処理等を行う関係で、公表されている推計結果とは数値が異なる）

■合計特殊出生率



合計特殊出生率は全国より高く、県より低い水準

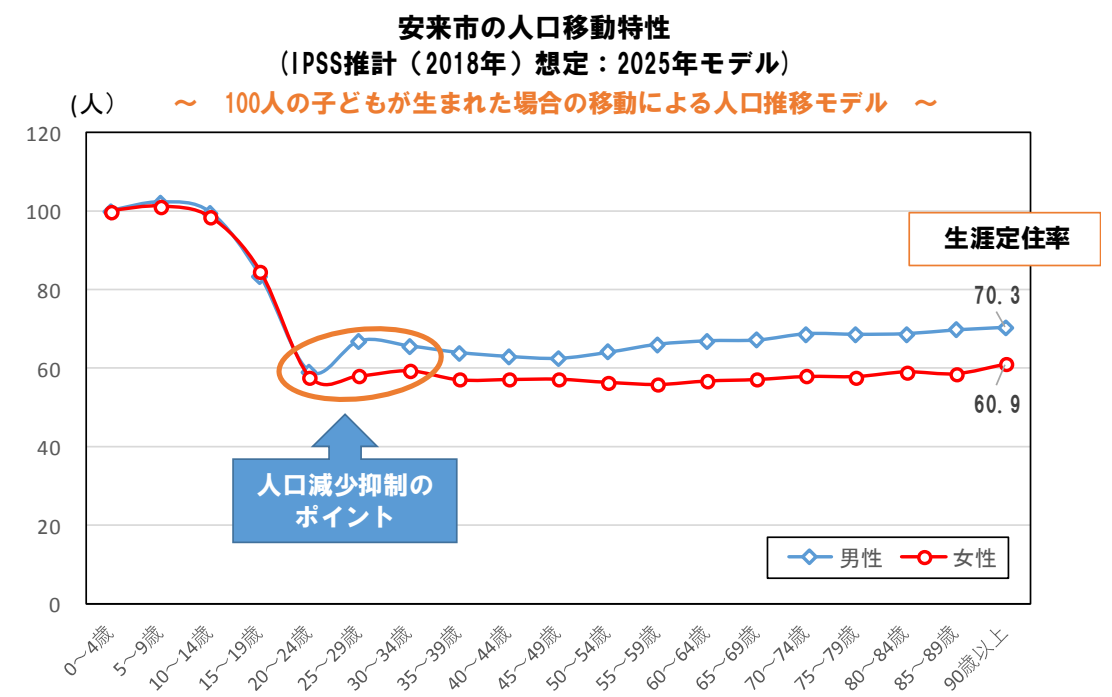
■移動（転入・転出）の状況



2017年を除き女性の転出超過が男性より多い

■国立社会保障・人口問題研究所（IPSS）推計準拠人口から見る生涯定住率

※“生涯定住率”は、死亡というファクターを除外した場合、100人の“0～4歳”児が“90歳以上”までに何人に変化するかを示す指標



“生涯定住率”という観点から捉えると、2025年モデルでは男性70.3、女性60.9
 → 25～34歳の女性のU・Iターン促進や転出抑制が人口減少抑制の鍵

◆審議会委員の主な意見等 (R1.8.28)

- 20～40歳の女性にとって魅力的なまちにすることが重要
- 若年女性人口（20～39歳）を増やす、「若い女性がすんでみたいくなる安来市」に向け、『結婚支援』『子育て支援』『就労支援』を3つの柱として取り組んではどうか。
- 定住促進に直接つながるとされる事業を拾い上げ、重点的に評価・見直しをすることが重要
- 「医師・看護師確保対策事業」に絡めるなど、安来市から通勤することを条件とした奨学金制度を設けてはどうか

安来市まち・ひと・しごと創生総合戦略の体系(案)

第1期総合戦略の体系

| 基本目標 | 目標指標 | 施策 | KPI(※赤字は関連性がやや薄いKPI) | 事業 |
|-----------------------------|----------|-------------------------|---|--|
| 1.若い世代の結婚・出産・子育てを“支援(てご)”する | 出生数 | (1)結婚しやすい環境づくり | ◇「はぴこ交流サロン」を通じた成婚数 | ◇結婚活動支援事業 |
| | | (2)-①妊娠・出産・育児の支援 | ◇メールマガジン登録者数(0~5歳児家庭) ◇一般不妊治療費助成件数 ◇子宮頸がん検診受診者数 ◇はじめての子育て講座の受講者数 ◇認定こども園運営箇所数 | ◇不妊治療助成事業 ◇がん対策事業 ◇子育て講座事業 ◇認定こども園運営事業 |
| | | (2)-②地域が一体となった子育て支援 | ◇子育て支援センター利用者数(0~2歳児) ◇ファミリーサポートセンター利用者数(小学1~6年生) ◇放課後児童クラブ利用者数 ◇放課後児童クラブ数 | ◇子育て支援センター事業 ◇ファミリーサポートセンター事業 ◇放課後児童健全育成事業 ◇みんなで子育て応援事業 |
| | | (3)学校教育の充実・グローバル人材の育成 | ◇未就学児の英語に親しむ活動の実施率(定期的に外国語指導助手を巡回させる幼稚園、認定こども園の割合) ◇全国学力調査の児童・生徒質問紙の回答の割合(質問:今住んでいる地域の行事に参加していますか) | ◇外国語指導事業 ◇しまねの子育て協働プロジェクト事業 |
| 2.産業振興により、若者に魅力ある雇用の場を創出する | 20代の社会移動 | (1)-①ものづくり産業の振興 | ◇新技術等の開発や取引拡大の支援件数 ◇企業誘致及びひき地促進による新規雇用者数 ◇ふるさと寄附の返礼品目数 | ◇ものづくり企業技術開発等支援事業 ◇企業立地促進奨励金事業 ◇企業立地雇用促進奨励金事業 ◇工業団地整備事業 ◇中山間地域等雇用基盤強化支援事業 ◇貸工場整備事業 ◇ふるさと寄附推進事業 |
| | | (1)-②農林業の振興 | ◇集落営農組織数 ◇新規就農者数 ◇認定農業者数 ◇新規林業従事者数 ◇市産材の活用量(バイオマス・公共施設等への市産材活用) | ◇新農林水産振興がらばる地域応援総合事業 ◇農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 ◇新規就農研修事業 ◇就農・定住パッケージ事業 ◇林業活性化事業 ◇中間工場整備事業 ◇特用林産物振興事業 ◇みどりの担い手確保緊急対策事業 ◇太陽光発電・ペレットストーブ等へ補助(ペレットストーブ分) ◇総合文化ホールのバイオマスボイラーの原材料購入 |
| | | (1)-③創業支援 | ◇支援事業を通じた新規創業件数 | ◇創業支援事業 |
| | | (2)地域資源を活かした観光振興 | ◇観光入込客数 | ◇誘客推進事業 ◇新・ご当地グルメ開発事業 ◇安来節振興事業 ◇インバウンド推進事業 ◇やすぎ刃物まつり事業 ◇月輪輪まつり振興会補助事業 |
| | | (3)若者・女性等の就職支援の充実 | ◇求職・求人ポータルサイト「中海圏域就職ナビ」登録事業所数 | ◇就労支援事業 |
| 3.住環境を向上し、市民の定住意識を高める | 30代の社会移動 | (1)住宅の確保 | ◇住宅支援の補助件数 ◇空き家バンク登録住宅の活用件数 | ◇定住推進支援事業 ◇定住推進支援事業(地域産材分) ◇民間賃貸住宅建設助成事業 ◇空き家情報登録制度(空き家バンク) |
| | | (2)移住者受け入れ体制の充実 | ◇相談窓口を通じた移住者数 | ◇定住サポートセンター事業 |
| | | (3)まちなか等の利便性の向上 | ◇事業を利用した空き店舗等への出店数 | ◇商業再生支援事業 |
| | | (4)-①防災体制の整備 | ◇自主防災組織数 ◇消防団員数 | ◇自主防災組織支援事業 ◇消防団体制の構築事業 |
| | | (4)-②医療・福祉の充実 | ◇介護人材育成支援事業数 ◇医学生、看護学生奨学金制度を活用して市内医療機関等に勤務する人数 | ◇福祉専門学校就学補助事業 ◇医師・看護師確保対策事業 |
| | | (4)-③市民の健康増進の支援 | ◇胃がん検診受診者数/大腸がん検診受診者数 | ◇がん対策事業【再掲】 |
| 4.多種多様な魅力的な“地域(じげ)”を形成する | 安来市への愛着度 | (1)-①地域コミュニティの担い手の確保・育成 | ◇地域おこし協力隊制度による移住者(家族含む) | ◇地域おこし協力隊事業 |
| | | (1)-②農林業の担い手の確保・育成 | ◇新規就農者数 ◇新規林業従事者数 | ◇就農・定住パッケージ事業【再掲】 ◇新規就農研修事業【再掲】 ◇みどり担い手確保緊急対策事業【再掲】 |
| | | (2)地域の拠点づくり | ◇地域ビジョンの作成地域数 ◇集落支援員の配置 | ◇地区交流センター活性化事業 ◇集落支援員事業 |
| | | (3)-①公共交通の充実 | ◇イエローバス利用者数 | ◇イエローバス運行事業 |
| | | (3)-②道路ネットワークの整備 | ◇道路改良延長 | ◇道路改良事業 |

第2期総合戦略の体系(案) ※施策の枠組みは暫定(事業の設定時に再度調整)

| 基本目標(案) | 目標指標(案) | 施策 | KPI及び事業設定の考え方 |
|-----------------------------|--|-------------------------|---|
| 1.若い世代の結婚・出産・子育てを“支援(てご)”する | 出生に関する指標 ◇出生数(将来目標人口の設定では5年間で1,360人程度) ◇合計特殊出生率(将来目標人口の設定では1.70) | (1)結婚しやすい環境づくり | <p><方向性> 出生の改善と、子育て世帯の定住に特化した枠組み。 出生改善には合計特殊出生率に加え、対応する出生が期待される女性(15~49歳)の定住促進が必須であり、関連する施策を位置づけることを検討。</p> <p><具体的な検討内容> 第1期計画の内容をベースとしつつ、目標指標と関連性の薄いKPIや事業の精査を行う。(※以降の基本目標も同様) また、新たな施策として「(4)女性の定住促進」を加えることを検討(KPIとしては「15~49歳の女性人口(割合)」等が考えられる)。</p> |
| | | (2)出産・子育て環境の充実(①②) | |
| | | (3)学校教育の充実・グローバル人材の育成 | |
| | | 【新規】 (4)女性の定住促進 | |
| 2.産業振興により、魅力ある雇用の場を創出する | 就労に関する指標 ◇市内就業者数 ◇求人倍率 ◇昼夜間人口比率 | (1)-①ものづくり産業の振興 | <p><方向性> 安来市内の就業者を増やすことを目的とした枠組み。 就業の場の確保により、移住・定住につなげることはもちろん、人口が減少する中で地域に活気を生み出す。</p> <p><具体的な検討内容> 第1期計画の「(3)若者・女性等の就職支援の充実」は重要である一方、女性に特化した就業支援の最大の要素は保育園や放課後の居場所整備であり、そうした内容は、基本目標1で扱われることから、「(1)-③創業支援」との統合を提案。</p> |
| | | (1)-②農林業の振興 | |
| | | 【統合】 (2)創業・起業・就業支援 | |
| | | (3)地域資源を活かした観光振興 | |
| 3.住環境を向上し、移住・定住を促進する | 移動に関する指標 ◇社会増減数(将来目標人口の設定では5年間で287人程度の社会増) | (1)住宅の確保 | <p><方向性> 市内の移住者・定住者を増やすことを目的とした枠組み。 住環境や生活の利便性を向上することにより、就労の場所は他の自治体であっても、居住地として選ばれるまちを目指す。</p> <p><具体的な検討内容> 第1期計画の「(4)-①防災体制の整備」「(4)-③市民の健康増進の支援」については、基本目標4に移動を提案。 利便性向上として特にニーズの高い第1期計画の「(3)-①公共交通の充実」「(3)-②道路ネットワークの整備」については、基本目標4から移動。</p> |
| | | (2)移住者受け入れ体制の充実 | |
| | | (3)まちなか等の利便性の向上 | |
| | | 【移動】 (4)道路ネットワークの整備 | |
| | | 【移動】 (5)公共交通の充実 | |
| | | (6)医療・福祉の充実 | |
| 4.多種多様な魅力的な“地域(じげ)”を形成する | 愛着に関する指標 ◇安来市への愛着度(※アンケート) | (1)地域コミュニティの担い手の確保・育成 | <p><方向性> 地域を大切に思う市民を増やすことを目的とした枠組み。 人口減少が進む中でも、それぞれの地域における豊かな暮らしの実現を目指す。※定義づけによっては関係人口を目標とすることも考えられる。</p> <p><具体的な検討内容> 「(1)地域コミュニティの担い手の確保・育成」においては、アンケートを踏まえ、女性に関する事業も検討。 「(1)-②農林業の担い手の確保・育成」については、基本目標2に委ねる ※その他、施策の移動に関しては基本目標3を参照。</p> |
| | | (2)地域の拠点づくり | |
| | | 【移動】 (3)-①防災体制の整備 | |
| | | 【移動】 (3)-②市民の健康増進の支援 | |

職員ワークショップまとめ

(1) ワークショップ実施の趣旨

現在、安来市で策定を進めている「第2次安来市総合計画」の後期基本計画に関して、重点戦略となる人口減少対策・適応に向けた取り組みについて、安来市の職員で検討し、その結果を次期計画策定に活用することを目的として、職員ワークショップを開催しました。

新たな視点での取り組みの検討を行うとともに、若手職員が総合計画、そして安来市の将来について考える機会作りとしても活用することを目的としています。

(2) ワークショップの概要

開催日時：令和元年8月27日（火）14：30～17：00

実施方法：各課から数名ずつ参加し、全20名を4グループに分け、ワールド・カフェ方式で議論しました。

(3) ワークショップの検討内容・テーマ

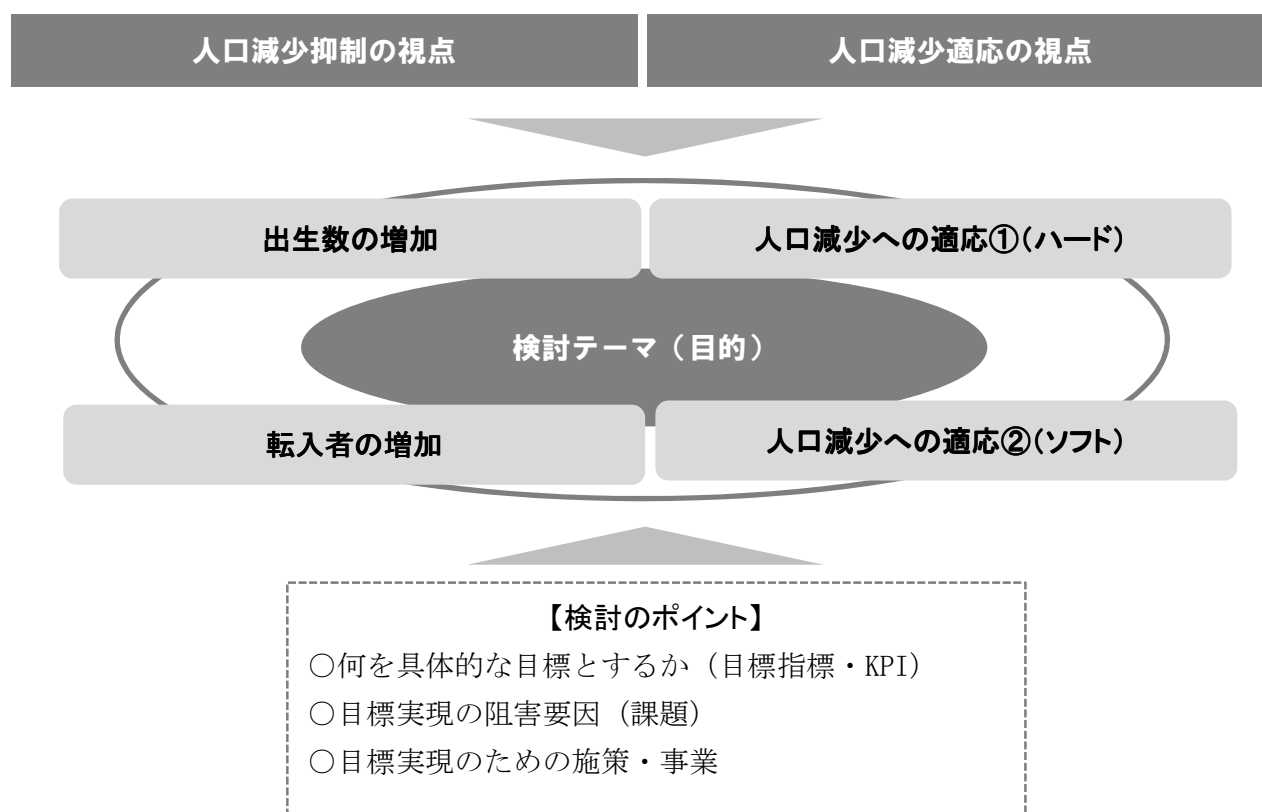
安来市喫緊の課題である人口減少対策・適応のための事業・取り組みについて、「人口減少抑制の視点」と「人口減少適応の視点」から人口減少に関して検討・議論を行いました。

検討テーマ1：出生数の増加

検討テーマ2：転入者の増加

検討テーマ3：人口減少への適応①（ハード）

検討テーマ4：人口減少への適応②（ソフト）



検討テーマ 1『出生数の増加』

結婚支援

- 婚活イベント
- イベント開催（出会いの場）
- 合宿（テラスハウス？）
- 出会いの場づくり
- 都会の女性との婚活イベント
- 移民
- おためし結婚あり。スウェーデンだかどこかがやっているはず（お試し住民で）
- 3人の子政策 3人子どもがいれば税金減らす
- 子どもがいない家庭から増税し、子どもが欲しい人に支援する

出産支援

- 産婦人科増やす？充実させる
- 妊活あと押し（助成など）
- 20代出産お祝い金
- 出産一時金を倍にする。100万程度
- 3人産んだら1000万円（それ以降も同じ）
- 職場の理解

子育て支援

- 職場の理解
- シングルマザーへの支援（未婚）
- 女性ひとりで子育てできる環境をつくる
- 一人でも子育てをしやすい体制づくり
- 子ども手当・補助金
- 子育てしやすい
- 保育支援の充実
- 子育てしやすい環境の整備
- 育児休業
- 子ども遊べる場増やす

- ママ友がつながる機会を増やす
- 養子縁組
- 男性が輝く社会・家庭（家事折半）
- 早く帰る
- 高齢出産者への補助
- 女性が働きやすい環境

人を増やす

【人を増やす】

- 結婚式場を建てる
- 雇用の創出
- 合計特殊出生率UP
- 若い女性増加
- 女性の転入を増やす対策
- マスオさん状態になった人に助成（Uターン限定）
- 女性の転出を防ぐ対策
- 転出する人に安来会（？）ライトな感じに入ってもらって情報提供を行う
- 仕事
- 女性のキャリアアップを阻害しない
- サテライトオフィス
- フレックスタイム
- 女性が働きやすい環境

【教育】

- 教育費を安くする（大学も含めて）
- 島大安来キャンパスをつくる
- 就学・就職前の若者をターゲット
- 高校スポーツを盛り上げる
- 少人数での教育のメリットをアピールできないか？
- 隠岐の島みたいに遠隔授業で教育の質向上

検討テーマ 2『転入者の増加』

職

- 職場を増やす
- 働く場を増やす
- 大企業誘致
- U・Iターン者助成金
- 外の若い人に安来に愛着をもってもらうため、進学校の誘致（全寮制みたいな）

- 土地を安くする中古物件の活用
- ちょい住み住宅
- 1日 1,500円、1か月 15,000円で利用できる単身者用滞在施設
- Uターン（シニア層）
- 転入してきたら、まず一時金、まず 10万円
- 助成

結婚

- 子連れをつれてくる
- 女性・男性の多い県に出張お見合い
- 田舎に住みたい人向けに安来市の若者と東京など都会の人をピンポイントでマッチングさせる取り組み
- 婚姻

ハード面

- 分別をへらす
- 高性能な焼却施設
- 脱・陸の孤島
- 駅前を充実させてイケてる街に見せる
- 公共交通の整備
- 交通の利便性
- 松江と米子どちらにも行きやすい環境を作る。有料道路の市による買取無償化及び利便性の高い土地の宅地化
- 高速無料化
- ゴミ焼却場（独自の全部一括してすてれるように）（松江市のように）
- （若い人向け）おためし住宅助成。シニアにももちろん終の住みかを選んでもらう
- 法人税を少なくして、企業誘致して働く場を作って住んでもらう。キャリアアップできる環境づくり
- 学校・スーパー・病院施設で住みやすくする。ゴミ焼却（日々の生活）
- 逆にベッドタウン仕事に行きやすい（ハード）
- 遊び場・買物（服）・TSUTAYA
- 独自性ブランドこっちがやりますよ墓地
- 死んでからも土地があるから

遊び

- 米子・松江から人を呼べる立地
- 若い人たちが遊べる場を提供
- 0～30歳が楽しめる場所を増やす（遊び場）
- 独自性のあるお店・施設、ブランド

買物

- ドライブスルー促進
- 買物スーパー

観光

- 立ち寄る観光ではなく、住みたくなる観光
- 観光客→転入者？

住

- 若い人の住民税軽減
- 使っていない土地を買い取って、安く売ってアパートなり家なりどんどん作る
- 安来市に～年住むことを前提として、「家賃」「職」「資格を助成」
- フリー住宅
- 助成
- 1か月 2万円で利用できる家庭用滞在施設
- 一人暮らし、二人暮らしの住宅を安くする
- シニア世代の取り込み施策

その他

- 病院
- 学校・教育
- 学校
- ひとり親
- 子ども手当
- TSUTAYA

検討テーマ 3『人口減少への適応(ハード)』

施設系

- 病院
- 映画館
- 古きよき町並みを残す
- スポーツジム
- 日本語学校（中海圏域の外国人教育施設）
- 公園の整備
- 高齢者就労施設があるといいのでは？
- 大企業にきてもらう
- 介護施設は増やさなくて良い（高齢者が減っていくから）
- カジノ誘致
- 学校を減らす（統廃合）
- 学校（大学・専門学校）
- 複合施設化
- ふれあい公園に大きな遊具を
- 自然を使ったフィールドアスレチック
- 駅前ローソンの復活
- アルテピア近くに山陰道降り口。そこを中心に発展！
- アルテピア周辺に他にも建物を
- 買い物できる駅前に
- ただ TSUTAYA はほしい

集約系

- コンパクト CITY
- 居住地区の統廃合
- 都市計画を見直す
- ポツンと一軒家
- 駅+図書館（おしゃれな）
- 生活に便利なものをくっつけて一つにした（パッケージ化）

交通系

- ★中海大橋
- 「今」松江・米子に住んで安来で働く
- 「未来」安来をベッドタウンに
- 主要道路の整備
- 夜動く公共交通機関
- 新幹線ほしい

- 東出雲～米子西を無料に！！
- 高速無料化（安来市民のみ無料化）
- 9号線を広く美しく
- 道路の車線を増やす
- 道路電車の利便性
- 渋滞の解消
- 松江・米子両方行きやすいようにして、いいところ取りができる環境（主に道路）
- まちのどこにでも行きやすい（短時間で）環境作り（主に道路）
- イエローバス利便性向上
- 公共交通機関の本数を増やせばいいと思う
- 電車本数増やす 遅い時間まで
- イエローバス減らす
- なかうみ CITY
- 中海圏域として周りの市町村と一体となる交通網

住居系

- ★空き家をリフォームして売る？貸す？
- 古民家カフェ
- 住む家がある
- 土地高い？
- マンション
- 市営の団地めっちゃ安くたくさん作る
- コーポ岩田
- 古い汚いまちと言わせない（9号線沿いだけでもリニューアル）
- 駅前にアパートやマンションを作る

その他

- 平日は安来 休日は松江・米子
- 米子・松江が隣なので立派な建物がなくても人口減らないはず
- 山・川をきれいに
- 中海の整備（東アジアとの交流）
- カカオ栽培
- いちごとワインと相性がいい！
- 実は現地でしか食べられない
- 鳥取砂丘のポケモン GO とつながる

検討テーマ4『人口減少への適応(ソフト)』

情報発信

- ・今いる人を逃がさない
- ・キャンプ（アウトドア）できそうな場所**ハンドブック
- ・他の地区と比較した情報発信
- ・内向けの情報発信（イベント情報地図）
- ・SNSでの若者向けの情報発信
- ・関係人口（縁）を増やす
- ・アプリ作る
- ・漫画で安来市を SNS 発信！（他市町村・県を巻き込む）
- ・インスタやってみるとか？
- ・SNSなどを利用した各種コミュニティ形成
- ・誇りをもてる地域づくり
- ・外の人視点をとくさん入れる
- ・生活に役立つ情報を発信する（申告の仕方等）
- ・ハッシュタグ

イベント

- ・近場で婚活をやるのではなく、安来と都会の人をつなげる仕組み作り
- ・若手が集まるイベント 30 歳成人式・・・
- ・住んでみる、知ってみる、機会をつくる
- ・地域のイベント
- ・アルテピアの活用

ふるさと教育

- ・市外の人にも安来市に興味を持つきっかけにつながる
 - ・ふるさと研修（子供版、大人版）
 - ・小中学生に対する「地域に関する授業」を行う
 - ・地域の魅力を子どもの頃から感じるようにする
 - ・古代出雲
 - ・地元愛を芽生えさせる！安来がスキ
- ★安来節

つながりづくり

- ・外国人とのコミュニケーション充実
- ・いろいろな人が集まれる場所をつくる
- ・運動で健康&つながりづくり
- ・横のつながりを強める

★つながりは強いのに認識できていない

- ・自治会の健全な楽しい活性化（ゆるいつながり）
- ・人口が減っているからこそ人と人との関係づくり
- ・子育て世代（と子ども）、老人以外が地域に関わる機会を作る
- ・盆野球の一般枠

保育支援

- ・通常の認定とは別に広域入所（保育）をゆるく受け入れて安来にお金を落としてもらうようにする
- ・保育料無料
- ・子育ての世代への支援
- ・子育て支援が充実している
- ・保育料は所得に応じて金額が変わるので、無料になるとある意味平等感もあり、いいと思う
- ・スーパー等のお母さんにためになる情報をまとめて提供

住みやすい場

- ・働く場所から住む場所になる（効果）
- ・売りたい人と買いたい人（住みたい人）とのマッチングが図れないのが問題
- ・ただ TSUTAYA はほしい

医療

- ・高齢者サービスの充実
- ・葬祭サービス
- ・24 時間開いている小児科の拡充
- ・医療費補助

高校生に来てもらう

- ・e スポーツ部
- ・珍しい部活つくる
- ・新聞・写真部等他の部活とも連携して情報発信
- ・市をあげて高校スポーツをバックアップ
- ・安来で高校生が付き合う
- ・高校野球、女子野球
- ・県外、市外から高校生が集まる、安来にすむ

検討テーマ1『出生数の増加』 まとめ

出生数の増加に向けて、結婚や出産に対する様々な支援を実施すると同時に、人を増やすことについても対策を行うという意見が出ました。マスオさん（妻の家庭に入った夫）に助成を行うといったこれまでにない提案もありました。

また、子育て支援として、女性の働き方への支援、キャリアアップへの対応という意見が出ました。

島根大学の安来キャンパスをつくる、という意見に対して、事務局から関連する方向性の取り組みについて、検討を進めている旨の総括もありました。



検討テーマ2『転入者の増加』 まとめ

職、住、買物、ハード面等、住みやすいまちとして、移住希望者を増やすための方策について、多くの意見が出されています。

また、遊びといった娯楽施設も必要であり、若者に対するまちの魅力度の向上も検討されました。

特徴的な意見として、若い人からシニアまで幅広い方への移住促進として「おためし住宅」の検討が出されています。

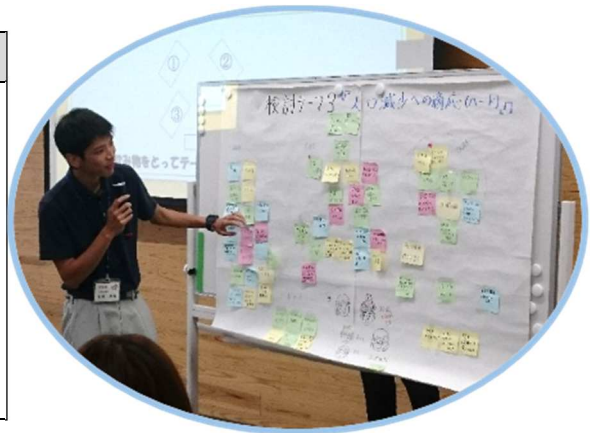


検討テーマ3『人口減少への適応（ハード）』 まとめ

住居を整備することで移住を促進し、家を建てることだけでなく、家のリフォームに関する対応についても検討されています。

施設や交通の整備を進め、住みやすいまちづくりへつなげていくことも意見として出されています。

また、コンパクトシティに関する意見もあり、市で進めている小さな拠点づくりにつながると考えられます。



検討テーマ4『人口減少への適応（ソフト）』 まとめ

安来節の活用をはじめ、イベントやつながりづくりといった、まちに住む方を巻き込むことで、愛着のあるまち、定住したいまちをめざすといった意見が多く出されています。

また、情報発信についても検討されており、SNSやマンガ等、若年層にも届く様々な媒体での情報発信を進めていくこと、外の人の視点を取り入れるといった意見が出されています。



まちづくりワークショップまとめ

(1) ワークショップ実施の趣旨

現在、安来市で策定を進めている「第2次安来市総合計画」の後期基本計画に関して、市民の声を計画に反映させるため実施した。これまで安来市が行ってきた施策や事業など市民からの意見や課題の洗い出しを行うとともに、まちはみんなで作るものであるため、自分事としてできることを宣言し、安来市のまちづくりに身近に感じる機会づくりを目的として実施した。

(2) ワークショップの概要

開催日時：令和元年10月27日（日）13：30～16：00

場 所：防災研修棟研修室（安来市安来町878-2）

参加人数：22名（うち推進委員3名、一般17名、高校生2名）

(3) ワークショップの検討内容・テーマ

市民アンケート結果、事業評価の結果を基に下記の選定条件を当てはめ、特に重点とすべき4テーマを選定した。この4テーマに関連する事業、または焦点になり得る事業を選定し、各担当課から事業概要説明を行った。下記4テーマ以外に「いろいろ」テーブルを含む5テーブルを用意し、事業やまちづくりに対する意見・アイデアを出し行った。最後は、まちづくりに対する自分事としてのアクション宣言を行っていただき、市民参画の重要性を認識して頂いた。

■選定条件

- 市民アンケート結果の優先度が高い施策
- 市民ニーズが大きく変化した施策
- 前期計画の評価結果が低い施策
- 国や県の計画や今後の方向性を考慮した施策
- 人口減少対策に効果的と思われる施策

■テーマ

- A 地域情報化 ～快適な都市生活を送ることができるまちづくり～
 - 地域情報化推進事業
 - 携帯電話不感地域対策事業
 - Society5.0
- B 商業振興 ～みんなで支えあうまちづくり～
 - 産業サポートネットやすぎにおける企業支援（安来市夢追人支援事業など）
 - 創業支援事業
 - 得する街のゼミナール事業
 - 商業再生支援事業
- C 医療サービス ～健康的な日常生活を送れるまちづくり～
 - 「健康やすぎ21」推進事業（がん対策・歯科保健・自死対策・食育推進など）
 - 医師・看護師確保対策事業
- D 結婚子育て ～安心して子育てできるまちづくり～
 - 教育・保育提供体制の確保
 - 結婚活動支援事業
- E いろいろ
 - その他の施策、総合計画・戦略自体、まちづくり全般…なんでも

(4) まとめ

A 地域情報化 ～快適な都市生活を送ることができるまちづくり～

○事業評価

観光情報や各地域でのイベント情報など市の情報の発信力についての課題が多い印象であった。またSNSなどの発信が弱く、多言語化が出来ていないとの指摘があった。またインターネットを使えない高齢者への対策も同時に必要である。

○自分事として

自分自身が行政からの情報を受け取る努力とともに、地域の魅力なども自分自身からSNSを通じて発信していく努力をするという意見が見られた。

○意見一覧

【情報】

- ・ ネットで安来の情報が無い（英語）
⇒観光スポットやイベント情報など
- ・ ビジネスやイベントの情報がFacebookに掲載されていない
- ・ 発信力の不足
- ・ 情報発信能力研修の場を市民向けに行ってほしい
- ・ 高齢者への対策にポケベルを使う

【通信環境】

- ・ 携帯電話が使いづらい
⇒災害に弱くなる
⇒子供が嫌がって安来に帰ってこなくなる
- ・ Wi-Fiの電波が弱い、改善してほしい
⇒生存確認の際に使う
- ・ ポケットWi-Fiを市でレンタルできるようにする
- ・ 鉄塔を建てる理由が分からない（他に方法は無いのか）
- ・ フリーWi-Fi
⇒緊急時に使える
- ・ NHKラジオの電波が入りにくい（FM・AM）

B 商業振興 ～みんなで支えあうまちづくり～

○事業評価

中心市街地活性化事業において中心市街地の位置や定義（どこを振興していくのか）がなされておらず、国道9号線からのアクセスも分かりづらく駐車場がないとの意見があった。

買い物面においては、大型スーパーの立地もいいが、地元商店も守る取り組みも必要である。

起業や創業面においては、ハードに一番お金がかかるため、ハードの補助金の強化や、ハード事業・ソフト事業の区分けの廃止を求める声もあった。また個人事業主どうし（農業、漁業、個人商店等）の連携の場を作れば、アイデアなどが生まれる可能性があるとの意見もあった。

観光面では、足立美術館から高速乗口までのルートに、観光客が立ち寄る仕掛けや、高級宿泊施設の建設誘致、豊かな自然を活かしたキャンプ場、農園整備など意見があり、地元にお金が落ちる仕組みが必要である。

○自分事として

チャレンジをする仲間を集め、人との繋がりを大切にしたいとの意見があった。

○意見一覧

【中心市街地】

- ・どこを中心に振興をするのか、どこが中心地なのかハッキリしていない
（安来、伯太、広瀬）
- ・中心市街地に駐車場が少ない

【施設】

- ・宿泊施設が無い
⇒星野リゾート（ゲストハウス）とのコラボ
⇒空き家を民泊として使う
⇒家賃のギャップがある（高い）
- ・遊ぶ場所が少ない
- ・伯太はローソンしか無い
- ・安来だから行きたいと思わせるようなスポット（宿、施設）を作る
- ・I・Uターンしにくい（住む場所を探しにくい） → 空き家バンクの登録なし
- ・アウトドアな施設を作る

【交通機関】

- ・バスの本数が少ない
- ・伯太⇄広瀬の移動がバスで1時間かかる
- ・松江、米子行きシャトルバス運営
⇒一部来てくれるかもしれない

【事業関係】

- ・個人事業主同士の連携
- ・ライオンズクラブやロータリークラブ等社会団体の連携
- ・イチゴ農園の観光で補助金がほしい
- ・夢追人支援事業（200万）のハード分が少ない（30万）
- ・昔からの店をより有効に使う

【お客さんの呼び込み】

- ・米子、松江からお客さんを呼ぶ
- ・足立美術館からのお客さんを引っ張ってくる

C 医療サービス ～健康的な日常生活を送れるまちづくり～

○事業評価

各種検診についての周知方法が年代によって周知方法や、健診内容が違うためその人々にあった周知方法がなされていないに加え、健診の必要性や市民認識が低い。また、検診に行く時間がなく、休暇など会社の理解促進が必要であるとの意見があった。

○自分事として

検診を受診するとともに、知り合いにも受診を薦めたいとの意見があった。

○意見一覧

【受診・検診】

- ・企業が行う検診と市が行う検診の違いが分からない
⇒会社にPRを行う
- ・企業、年代によっても検診が異なる
- ・検診の時間が長い
- ・土日に受診できる病院もある
⇒休みをずらす
- ・時間外対応
- ・ガン検診の認識に必要性が感じられない
⇒男性は数字で説明すると分かりやすい
⇒情報を取りに行かないので芸能人（もしくは身内）が発信する
- ・ポイント制で何かをもらえるようにする
⇒会社もポイントで優良店として認定。マイナンバーカードで管理

【情報発信】

- ・土日のイベントが分からないし、忙しい（子供の世話など）
- ・PR方法
⇒インターネット（SNS）
⇒スーパー
- ・情報発信している場所と対象者が違う
⇒発信した啓発物に意識がある人となない人の差（キャッチフレーズが大切）

【就職】

- ・働きやすい環境の整備
- ・安来に医療関係で就職してくれる人に補助金を出す

- ⇒安来に就職することにメリットが無い
- ⇒高齢者を集めてお客さんを増やす（病院や医師にもメリット）
- ・医療機関の斡旋として米子や松江を紹介される

D 結婚・子育て ～安心して子育てできるまちづくり～

○事業評価

保育事業に関しては、各園の特色の発信や、副食費の問題も含めた食育、子育て情報サイト「ママフレ」のPRや見やすいよう改善してほしいなどの意見があった。学童事業については、希望する学童施設に入れないことや、学年の壁の撤廃、夏休みに子どもが集まれる場所を作ってほしいとの意見があった。

結婚事業については、都会地から人を呼べるイベントを行ったらどうかなどの意見があった。

○自分事として

安来市の子育て施策を知り合いのママ友にPRしたいとの意見があった。

○意見一覧

【保育】

- ・各園の特色があると保護者も選びがいがある
- ・待機児童はゼロだが誰もが希望した園に入れるといい
- ・年度途中の入所をしやすくしてほしい
- ・副食費の問題も含めて食育に力を入れる
- ・兄弟姉妹で別々の園になるのはやめてほしい
 - ⇒送迎に大きな負担
- ・スマホで子育て情報を得られることをPRしてほしい
 - ⇒子育てサイトは字が多いし見づらい、検索できない → 情報をシンプルに伝える（市のHPと子育てWEBサイトの2つがあり分かりにくい。）
 - ⇒例：長野県佐久市「教えてドクター」
 - ⇒子連れのイベントやレストランの情報が欲しい
- ・学童に入れない
 - ⇒夏休みの日中に子供が集まれるところが欲しい（校区単位）
 - ⇒学年の壁をなくして欲しい（どこの学童も最終学年まで預かってほしい）
 - ⇒小さい単位でイベントができるといい（例：サマースクール）
 - 場所、人、財源の確保が必要
 - 一風亭、交流センターなどの活用・整備（子供に勉強を教えたい学生を募る）
 - 保護者も一緒に運営を行う

【結婚】

- ・都会の人を連れて帰れるセミナーを行ってはどうか。

E いろいろ

○事業評価

様々な意見があったが、総じて情報の発信力不足や多言語化の遅れなどの意見が多い印象であった。また安来市の風景や、たたら歴史などインターネット（SNS）によるPRを強化してはどうかとの意見があった。昨今の情報化社会に伴い、高齢者向けのスマホ講習の開催も行ってほしいとの意見もあった。

○自分事として

今回のワークショップでは比較的30代～40代の働き世代や外国人住民も参加して頂いたため、安来市を国際化していきたい、自分も国際感覚を磨くなど多文化共生を意識した意見、SNSを活用し安来の魅力を自分自身でPRしていくなどの意見があった。また、コミュニティづくりをしたいなど、人と人との繋がりを重視したいとの意見が多い印象であった。

○意見一覧

- ・図書館に子供向けの算数の本が無い。
- ・国際イベントをあまりやっていない。
⇒イベントを行った上で、その情報を動画などでSNSに載せる
⇒コラボイベント（アニメなど）
- ・移動が不便（公共交通機関）
- ・宿泊場所が少ない
⇒空き屋の活用（安来の強みにする）
- ・多言語で農業と景色に関するツアーをしてほしい
⇒雑誌よりもSNSや動画で広報してほしい（英語で）
⇒観光地を増やす（キャンプ場、イチゴ農場など）
- ・オープンデータの写真が知られていない
⇒Instagramに載せる（タグ付けもして検索に引っかかりやすく）
- ・遊びに来る人がいない、場所が無い、発信が無い
⇒地域住民と他から来た人の交流 → 「地域連携」で対応
- ・子供の遊ぶ場所が少ない。（特に屋内）
⇒体育館、キッズスペース
- ・世代間交流の施設を増やす
⇒つどいの広場のようなものを多くする
⇒高齢者のスペースはある 例：プラーナ

- 子供が遊べるような自然（かつ浅瀬）の川が無い
⇒水質改善
- ゴミ捨て、分別：少し緩くしてはどうか（分別が負担になる）、又は焼却場を作る
⇒維持が難しいのではないか
- 年配者対象のスマホ講習をする